

2019年度学事日程カレンダー

前期

4月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

(2018年度後期成績通知:3月末)

- 4/1 入学式
- 4/2～5 オリエンテーション期間
- 4/2～4 健康診断
- 履修者数制限科目履修希望受付期間
- 履修登録期間①※1
- 4/3 AA面談※2
- 4/3, 4 履修相談日
- 4/4 レッスン打ち合わせ
- 4/5 学外オリエンテーション
- 4/6～15 履修登録期間②※1
- 4/8 前期授業開始

5月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

- 5/6 授業実施日
- 5/10 卒業論文等※3題目提出期限(9月卒業予定者)
- 【院】修士論文等※3題目提出期限(9月修了予定者)
- 5/24 避難訓練(緑園)
- 5/25 学部補講日
- 5/27 避難訓練(山手)

6月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

- 6/1 創立記念日・授業実施日
- 6/14 【院】博士学位申請論文提出資格確認
- 6/15 学部補講日
- 6/20～24 前期集中講義履修登録期間

7月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

- 7/1 午前補講日・前期キリスト教講演会(午後休講)
- 7/2 前期第14週試験時間割・レポート試験発表
- 7/3, 4 卒業論文等※3提出日(9月卒業予定者)
- 7/3～5 【院】修士論文等提出期間(9月修了予定者)
- 7/9 前期第15週試験時間割発表
- 7/15 授業実施日
- 7/29 授業終了
- 7/30～8/1 実技試験
- 【院】修士学位審査研究発表・演奏会(9月修了予定者)(音楽)
- 7/30～9/16 夏季休業

※1 履修登録期間: 前期(①4/2 14:00～4/4 18:00 及び ②4/6 10:00～4/15 18:30)
後期(①9/17 9:00～9/18 12:00 及び ②9/20 13:00～9/30 18:30)

※2 AA面談:アカデミック・アドバイザー面談

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※4 「修士論文」「修士研究・修士副論文」

は授業実施日

8月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

8/2、3、5～7 前期集中講義期間(第1ターム)

8/22、23 追試験期間

8/26～30 前期集中講義期間(第2ターム)

8/31 実技追・再試験日

9月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14

9/3～5 サマーキャンプ

9/11 9月卒業・修了者発表、成績通知(1～4年次)

後 期

9月	日	月	火	水	木	金	土
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

9/17 AA面談^{※2}

履修相談日(午後)

9/17、18 履修者数制限科目履修希望受付期間

履修登録期間^{※1}

9/18 9月卒業再試験日

9/20～30 履修登録期間^{※1}

9/23 後期授業開始、授業実施日

9/25 9月学位授与式

10月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

10/11 卒業論文等^{※3}題目届提出期限

【院】修士研究・修士副論文題目届提出期限(音楽)

10/14 授業実施日

10/22 授業実施日

10/23 後期キリスト教講演会(午前休講)

10/24 避難訓練(緑園)

10/29 避難訓練(山手)

11月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

11/2～5 大学祭期間(全学休講)

11/3、4 大学祭

11/8 【院】修士論文題目届提出期限(人文・国際)

11/16 緑園キャンパス入校禁止^{※5}

11/20～22 後期集中講義履修登録期間

11/23 授業実施日

学部補講日

※1 履修登録期間：前期(①4/2 14:00～4/4 18:00 及び ②4/6 10:00～4/15 18:30)

後期(①9/17 9:00～9/18 12:00 及び ②9/20 13:00～9/30 18:30)

※2 AA面談：アカデミック・アドバイザー面談

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※5 緑園キャンパス入校禁止：入試のため。

は授業実施日

12月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

12/4～6 【院】修士研究・修士副論文提出期間(音楽)

12/9、10 卒業論文等^{※3}提出日
 12/11 クリスマス礼拝(午後休講)
 12/12 補講日
 12/13 後期第14週試験時間割・レポート試験発表
 12/16～20 【院】博士学位申請論文提出期間
 12/20 後期第15週試験時間割発表
 12/23～1/3 冬季休業

1月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

1/4 授業再開

1/7～9 【院】修士論文提出期間(人文・国際)

1/17～19 緑園キャンパス入校禁止^{※5}

1/27 授業終了
 1/28 補講日
 1/29、30 卒業試験公開演奏会(4年次)

2月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

2/1～2/4 緑園キャンパス入校禁止^{※5}
 2/5～7 【院】修士学位審査研究発表・演奏会(音楽)
 2/5～8、10 後期集中講義期間(第1ターム)
 2月上旬～中旬 【院】最終試験期間
 2/12 追試験日(4年次)
 2/13～15 後期実技試験期間(1～3年次)
 2/17～18 緑園キャンパス入校禁止^{※5}
 2/21 卒業・修了者発表(博士後期以外)
 2/25 実技追・再試験日(1～3年次)
 2/27、28 追試験期間(1～3年次)
 2/28 卒業再試験(4年次)

3月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

3/2～4、9、10 後期集中講義期間(第2ターム)
 3/5、6 緑園キャンパス入校禁止^{※5}
 3/10 修了者発表(博士後期)
 3/19 卒業礼拝
 3/20 学位授与式
 (2019年度後期成績通知:3月末)
 (2020年度入学式:4/1)

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※5 緑園キャンパス入校禁止:入試のため。

は授業実施日

2019年度授業日一覧

 の祝日は授業開講日

【前期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2019年	第1回	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日
	第2回	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日
	第3回	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日
	第4回	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日
	第5回	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日
	第6回	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日
	第7回	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日
	第8回	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日
	第9回	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日
	第10回	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日
	第11回	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日
	第12回	7月8日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日
	第13回	7月15日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
	第14回	7月22日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日
	第15回	7月29日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日

【後期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2019年	第1回	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日
	第2回	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日
	第3回	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日
	第4回	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日
	第5回	10月21日	10月22日	午前 10月30日 午後 10月23日	10月24日	10月25日
	第6回	10月28日	10月29日	午前 11月6日 午後 10月30日	10月31日	11月1日
	第7回	11月11日	11月12日	午前 11月13日 午後 11月6日	11月7日	11月8日
	第8回	11月18日	11月19日	午前 11月20日 午後 11月13日	11月14日	11月15日
	第9回	11月25日	11月26日	午前 11月27日 午後 11月20日	11月21日	11月22日
	第10回	12月2日	12月3日	午前 12月4日 午後 11月27日	11月28日	11月29日
	第11回	12月9日	12月10日	午前 12月11日 午後 12月4日	12月5日	12月6日
	第12回	12月16日	12月17日	12月18日	12月19日	12月20日
2020年	第13回	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日	1月10日
	第14回	1月20日	1月14日	1月15日	1月16日	1月17日
	第15回	1月27日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日

目 次

2019 年度 日程

学事日程	1
授業日一覧	4

建学の精神・教育理念

建学の精神・教育理念・ 人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー	6
--	---

大学院 共通事項

履 修	10
修了要件・学位申請論文等	21

大学院 教育課程

人文学研究科	29
博士前期課程	34
博士後期課程	38
国際交流研究科	43
博士前期課程	46
博士後期課程	55
音楽研究科	59
修士課程	62

大学院 開講科目表

人文学研究科

英語英米文学専攻博士前期課程	72
日本語日本文学専攻博士前期課程	74
コミュニケーション学専攻 博士前期課程	76

英語英米文学専攻博士後期課程	78
日本語日本文学専攻博士後期課程	79
コミュニケーション学専攻 博士後期課程	80

国際交流研究科

国際交流専攻博士前期課程	82
国際交流専攻博士後期課程	85

音楽研究科

音楽芸術専攻修士課程	86
演奏専攻修士課程	87

学 籍

学籍	90
----------	----

資 料 編

組織	96
フェリス学院大学の沿革	97
専任教員一覧	99
役職者	101
教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者	102
2019年度の主な制度変更（大学院関連）	103

建学の精神・教育理念

建学の精神

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。

教育理念

さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

この言葉は「他者のために」と訳すことができます。自分やちかしい人だけではなく、より広い視野から他者の存在をも考えに入れて、他者のために行動することを、本学で学ぶ一人一人が受け継いでいます。

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

フェリス女学院大学大学院は、「キリスト教を教育の基本方針となす本学の建学の精神に基づき、高度の専門の学術に関して、その研究方法、理論及び応用を教授研究し文化の進展に寄与するとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献する能力をもった女性を育成することを目的」(大学院学則第1条)としている。

フェリス女学院大学大学院では、上記の人材養成目的を実現するために、各研究科・専攻における人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定めています(下記該当ページを参照してください)。

ディプロマ・ポリシーは大学から社会に対する約束です。博士前期(修士)、博士後期課程を修了する時点で最低限できるようになっていることを表しています。したがって、ディプロマ・ポリシーは、修了時には必ず達成されなければなりません。

カリキュラム・ポリシーは、この達成のために学生が体系的性と整合性が担保されたカリキュラムで学べるよう定めるものです。

各研究科、専攻

次の該当ページを参照してください。

人文科学研究科	pp.30～31
国際交流研究科	pp.44～45
音楽研究科	pp.60～61

大学院共通事項

履 修

大学院教育課程

人文科学研究科

国際交流研究科

音楽研究科

大学院開講科目表

学 籍

資 料 編

履修

履修
—

履 修

授 業

授業時間

緑園校舎・山手校舎ともに学部に準じます。

緑園校舎

第1時限	第2時限	礼拝(月～金)	第3時限	第4時限	第5時限
9:00 }	10:40 }	12:20 }	13:10 }	14:50 }	16:30 }
10:30	12:10	12:40	14:40	16:20	18:00

山手校舎

第1時限	第2時限	礼拝(木)	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 }	10:50 }	12:30 }	13:50 }	15:30 }	17:10 }
10:40	12:20	13:00	15:20	17:00	18:40

国際交流研究科(緑園校舎)で夜間開講とする場合の授業時間は次のとおりです。

第6時限	第7時限
18:10 }	19:50 }
19:40	21:20

スクールバス時刻表

両キャンパスを1日に2往復しています。(定員:26名)

便	山手		緑園
	6号館	4号館	
1	12:25	12:30	13:05
3	15:35	15:40	16:15

便	緑園	山手	
		6号館	4号館
2	13:10	13:40	13:45
4	16:30	17:05	17:10

年間運行日はバス停に掲示します。授業期間外は運休です。

休 講

大学又は各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassportで周知します。

休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当者が入室しない場合は、自然休講とします。

休講についての電話照会には応じません。

全学休講措置

休講措置をとる場合は、本学 Web サイト、FerrisPassport 及び緊急連絡システムで周知します。

交通機関運行停止（計画運休含）の場合

台風・大雨・大雪等の各種自然災害や事故等による鉄道等交通機関の運行停止の場合、各校舎において次のような措置をとります。

午前6時までに復旧している	平常どおり授業実施
午前10時までに復旧している	1・2 限休講
午前10時までに復旧していない	終日休講 ^{※1}

※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

対象となる交通機関

緑園校舎：相模鉄道線

山手校舎：JR 根岸線及びみなとみらい線^{※2}

※2 山手校舎については、両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

神奈川県下に暴風警報、暴風雪警報又は特別警報が発令された場合

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります（警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」（045-177）発表のものとします）。

また、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に特別警報（大雨、暴風、暴風雪及び大雪）が発令された場合も、上記に準じます。

午前6時までに警報が解除されている	平常どおり授業実施
午前10時までに警報が解除されている	1・2 限休講
午前10時までに警報が解除されていない	終日休講 ^{※1}

※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

新型インフルエンザが流行した場合

新型インフルエンザが流行し、厚生労働省から新型インフルエンザ対策行動計画が緑園・山手両キャンパスの近隣地域で発令された場合は、感染防止のため、発令が解除されるまで終日休講とします。

補 講

大学又は各授業担当者のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則として補講を行います。また、担当者の判断により補講を実施することがあります。

補講情報は、FerrisPassport で周知します。担当者から直接指示があった場合、その指示に従ってください。

授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当者に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「感染症罹患届」又は「欠席届」の手続を受け付けますので、速やかに申し出てください。出欠の扱いは各授業担当者の判断に委ねられています。

	欠席理由・状況	取扱窓口	必要書類	備 考
①	感染症にかかった	教務課	「診断・登校許可証明書」または「医師の診断書」(出席停止期間が確認できるもの)	※2を参照。
②	傷病等の理由により、2週間以上続けて欠席する	教務課	「医師の診断書」等、欠席理由・期間を証明できるもの	
③	忌引	教務課	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書(写)	※3を参照。
④	裁判員に選任され、審理に参加する	教務課	裁判所が発行する証明書	
⑤	その他特別な事情により、2週間以上続けて欠席する	教務課	理由を証明する書類	

※証明書類は当該科目の授業日に出席できなかったことを証明するもの、「〇月〇日～〇月〇日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

※2 感染症にかかった場合

学校感染症(学校保健安全法施行規則第18条)にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。

医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。授業への出席・試験の受験は認められません。

出席停止期間の終了後2週間以内に、必要書類を教務課に提出してください。

→『Ferris Handbook2019』(p.138)

※3 忌引の場合

次の続柄の親族が亡くなった場合は、必要書類をもって教務課に申し出てください。忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。日数には、土日・祝日を含みます。

続 柄	忌引日数
配偶者、父母、子	連続7日以内
配偶者の父母	連続5日以内
祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹	連続3日以内

単位制度

本学で修得した単位の認定

授業科目の単位の認定は、平常点評価及び試験によって行われます（大学院学則第10条）。

授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次のとおり単位数を定めています。
なお、本学では1回（90分）の授業を 2時間 として計算しています。

人文科学研究科・国際交流研究科

- (1) 講義科目・演習科目
毎週2時間、1学期15週の授業で2単位とします。
- (2) 単位の認定
筆記もしくは口頭による試験又は研究報告によるものとします。

音楽研究科

- (1) 講義科目・演習科目
毎週2時間、1学期15週の授業で2単位とします。
- (2) 選択 PA 科目

実技レッスン A, B	毎週1時間、1学期15週の授業で3単位
特別実技レッスン A, B	毎週1/3時間、1学期15週の授業で1単位
- (3) 単位の認定
筆記・口頭もしくは実技による試験又は研究報告によるものとします。

履修登録

履修上の注意

1. 履修方法

各専攻の「授業科目の履修方法」を見てください。

2. 履修登録

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続です。定められた期間に、履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。また、履修登録及びその確認の手続不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

(1) 履修登録上の注意

- ① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
- ② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
- ③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続を行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
- ④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
- ⑤ 集中講義科目及び海外研修など、休業期間を利用した授業科目は、通常科目とは異なる日程で履修登録を行うので注意すること。
→p.17「2019年度履修のスケジュール」
- ⑥ 履修登録を行った際には、必ずPCサイトから「学生時間割表」を印刷、保存しておくこと。（登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。）

(2) 履修登録

- ① 学内のPCをはじめ、インターネットに接続できる環境であれば学外からも登録できます。FerrisPassportはPC版及びスマホ版がありますので、アクセス機器に応じて適切なサイトを利用してください。なお、学内のPC以外からの登録については、利用環境により動作保証外の場合があり、システムが正常に動作しない可能性があります。履修登録確定後は、必ずPCサイトから「学生時間割表」を印刷し、保存してください。

履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内でのPCの稼動状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。

- ・ 本学公式 web サイト (<https://www.ferris.ac.jp/>)
- ・ FerrisPassport
- ・ 学内掲示板

- ② 履修登録期間中には、学内のPC利用が混雑したり、PCの動作が遅くなることも予想されますので、あらかじめ科目を決定したうえで、時間的な余裕を十分に持って登録してください。
- ③ 履修登録期間終了後の登録科目の追加・変更は、必修相当の授業科目を除き、認められません。

(3) 遅延登録

やむを得ない理由（学部の追試験許可理由に準ずる。）により、履修登録期間に手続できない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内（休日を含む。）に「遅延登録願」（教務課備付）及び必要な証明書類等を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で遅延して履修登録を希望する者は、「遅延登録願」（教務課備付）の提出をもって願い出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料（5,000円）が徴収されます。

(4) 登録確認・訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassportで登録科目の確認ができます。必ず履修登録時の「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべき科目がもれなく登録されているかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を印刷して持参し、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続を行わなければなりません。

3. 集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。

(1) 日程

実施期間は、学事日程（pp.1～3）を参照してください。

科目ごとの日程・授業時間の詳細は、各学期始めにFerrisPassportでお知らせします。

(2) 注意事項

- ① 修了年次生は修了学期に集中講義期間（第2ターム）の科目を履修することはできません。
- ② 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。
- ③ 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中講義科目を履修することはできません。

履修登録の方法等は、学部準じます。ただし、大学院学生に対しては、GPA制度及び履修科目取消制は適用されません。

詳細は4月のオリエンテーションで確認してください。

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

(1) 指導教授が学生の研究上特に必要と認める場合

指導教授が学生の研究上特に必要と認めるときは、他専攻、他研究科、学部の授業科目を履修させることがあります。その授業科目の単位については、所属する研究科の研究科委員会が審議の上、承認が得られた場合に、8単位を超えない範囲で博士前期課程・修士課程の修了に必要な単位として認められます。

ただし、研究科への入学以前に、本学の学部において修得した授業科目のうち、重複履修不可の授業科目を再度履修した場合には、これを修了要件に算入することはできません。

(2) 学生本人が希望する場合

学生本人の希望により、他専攻若しくは他研究科又は学部の授業科目の履修をする場合は、所属する研究科の研究科委員会の承認が得られた科目に限り履修が認められます。

なお、この場合は、修了に必要な単位としては認められません。

(3) 長期履修学生の場合（国際交流研究科のみ）

別に定めます。国際交流研究科博士前期課程「履修方法」（pp.47～48）を参照してください。

履修手続方法

上記（1）（2）により、他専攻若しくは他研究科又は学部の科目を履修する場合は、「他専攻、他研究科、学部の授業科目履修願」（教務課及び山手事務室備付）に記入の上、教務課または山手事務室に提出してください。語学科目の履修を希望する場合は、語学責任者の許可が必要です。

詳細については、4月オリエンテーション時に説明します。

2019年度 履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3月末 (2018年度後期分)	9月11日(水) (2019年度前期分)	
成績評価確認願 (希望者のみ)	～4月8日(月)18:00	～9月24日(火)18:00	
履修登録	4月2日(火) 14:00 ～4月4日(木) 18:00 4月6日(土) 10:00 ～4月15日(月) 18:30	9月17日(火) 9:00 ～9月18日(水) 12:00 9月20日(金) 13:00 ～9月30日(月) 18:30	
履修者数制限科目 希望受付	4月2日(火) 14:00 ～4月4日(木) 18:00	9月17日(火) 9:00 ～9月18日(水) 12:00	
履修者数制限科目 履修許可者発表	4月6日(土) 10:00	9月20日(金) 13:00	発表は FerrisPassport 及び 教務課掲示板で行います。

授 業 受 講 開 始

履修登録確認・訂正申告	4月16日(火) 9:00 ～4月22日(月) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	10月1日(火) 9:00 ～10月7日(月) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。
遅延登録(*1)	4月16日(火) 9:00 ～4月22日(月) 18:00	10月1日(火) 9:00 ～10月7日(月) 18:00	
履修登録 (集中講義、海外語学実習等 希望者のみ*2)	6月20日(木) 9:00 ～6月24日(月) 18:00	11月20日(水) 9:00 ～11月22日(金) 18:00	pp.15～16 参照
履修登録確認・訂正申告 (集中講義希望者のみ)	6月26日(水) 9:00 ～7月2日(火) 18:00	11月26日(火) 9:00 ～12月2日(月) 18:00	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。
遅延登録(*1) (集中講義希望者のみ)	6月26日(水) 9:00 ～7月2日(火) 18:00	11月26日(火) 9:00 ～12月2日(月) 18:00	

*1 大学が認める理由に該当した場合は遅延手数料が免除されます。

*2 集中講義科目や海外研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目とは別に設定されています。

試験

担当教員の指示に従ってください。学部の授業科目の試験については、「学生要覧」（学部生対象）の「試験」を参照してください。

成績評価

1. 成績評価

成績評価の基準は、次のとおりです。

	評価	評 価 基 準	
合 格	A	100点～80点	到達目標を達成し、優れた水準に達している。
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な水準に達している。
	C	69点～60点	到達目標を達成している。
不 合 格	F	59点～ 0点	到達目標を達成していない。
	G	—	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。
	H	—	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、不正行為、もしくはその他の理由による。

2. GPA 制度

大学院学生に対しては、GPA 制度は適用されません。

3. 成績通知（FerrisPassport）・成績証明書への表示

成績通知の際には上記の評価がすべて表示されますが、成績証明書には「F」「G」「H」は表示されません。また、本学以外で修得した単位の認定については、成績通知及び成績証明書に授業科目名：「単位認定」、評価：「N」と記載されます。

4. 成績通知

学部に準じます。「学生要覧」（学部生対象）の「成績評価」を参照してください。

5. 成績評価に関する問い合わせ

学部に準じます。「学生要覧」（学部生対象）の「成績評価」を参照してください。

単位認定

他の大学院等で修得した単位の認定

他の大学院又は研究所等の授業科目を修得した単位は、研究科委員会の定めるところにより、10単位を超えない範囲で本大学院において修得したものとみなすことができます（大学院学則第9条）。

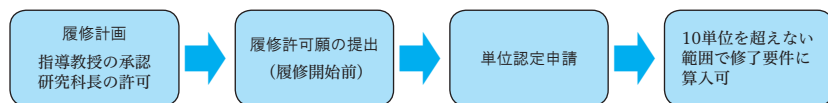
なお、外国の大学院又は研究科委員会で教育上有益と認めた研究所等で修得した単位の認定についても、上記に準じて手続を行ってください。

(1) 手続

指導教授の承認を得て、他大学大学院の授業科目履修の手続を行い、研究科長の許可を得た後、履修願を提出しなければなりません。

(2) 修了要件への算入

この方法により修得した単位は、合わせて10単位を超えない範囲で、博士前期課程又は修士課程の修了に必要な単位（選択科目の単位）として認められます。



申請先	教務課
申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ① 履修開始前 「他大学院等での科目等履修願」（教務課備付）に記入し、指導教授の承認印を得た上で、次の書類を添付して提出してください。修了予定学期における履修は修了要件に含まれない場合がありますので、あらかじめ教務課に相談してください。 添付書類：履修予定の大学院等の履修要項 履修する講義内容（シラバス） ② 履修後 「単位認定申請書」（教務課備付）に必要書類*を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 *必要書類については、履修前に教務課窓口にて説明します。
手続期限	① 原則として履修開始の1か月前まで。 ※授業実施期間外（夏季・春季休業期間中など）は教務委員との面談ができない場合がありますので、余裕をもって申請してください。 ② 履修終了後1か月以内 *新入生の申請期限については、教務課に問い合わせてください。

神奈川県内大学院学術交流協定で修得した単位

神奈川県内の大学間における学術交流に関する協定に基づき、協定校の特別聴講学生、特別研究生となること及び共同研究への参加ができます。

履修・単位認定申請については、次のとおりです。

申請先	教務課、山手事務室
申請方法	指導教授と相談の上、「特別聴講学生推薦書」及び「特別聴講学生申請書」（教務課、山手事務室備付）を提出してください。 詳細は、資料（教務課、山手事務室備付）で確認してください。
申請期限	各大学院が設定した締切日4日前まで（受入先大学院によっては、後期に申請を受け付ける場合があります。詳細は教務課に問い合せてください。）
注意事項	① 時間割、講義内容については各大学の web サイトで閲覧してください。 ② 修得した単位は、「他大学の大学院において修得した単位」に準じた扱いとします。 ③ 修了予定学期の単位は修了要件単位としては認められません。

入学前に他の大学院等で修得した単位

本大学院への入学以前に、本大学院あるいは他の大学院で修得した単位は、所定の手続きにより、本大学院で修得したものとみなすことができます。

(1) 手続

単位認定を希望する者は、下記のとおり所定の手続にて申請してください。研究科委員会で審議の上、認定の可否を決定します。なお、この場合の単位認定申請は、入学年度に限って受け付けます。

(2) 修了要件への算入

合わせて10単位を超えない範囲で、本大学院で修得したものとみなすことができ、博士前期課程の修了に必要な単位（選択科目の単位）として認められます。

ただし、国際交流研究科は、入学前に本大学院で修得した単位のみ、選択必修分の修了要件単位として認めることがあります。

申請先	教務課
申請方法	「単位認定申請書」（教務課備付）に記入し、次の書類を添えて提出してください。 添付書類：「成績証明書」「履修要項」「講義内容」
申請期間	2019年4月3日（水）まで

修了要件・学位申請論文等

博士前期課程・修士課程・博士後期課程共通

1. 修了者発表

次の日時に掲示、FerrisPassport によって発表します。

日時	博士前期、修士：2020年2月21日（金）夕方 博士後期：2020年3月10日（火）夕方
場所	FerrisPassport・緑園校舎・山手校舎

2. 早期修了制度

利用基準は各専攻で次のように定めています。

専攻	基準
日本語日本文学	「特に優れた研究業績」の基準として、博士前期課程の学生には査読論文1本以上、博士後期課程の学生には査読論文3本以上の要件を課す。
音楽芸術	次の各号に定める事項（1）から（5）のいずれかを満たし、指導の教員による研究活動および研究評価の所見を経る。指導の教員による申し出を受けて組織された「早期修了候補者選考委員会」により「優れた業績を上げた」と評価された後、（3月修了の場合は6月末までに、9月修了の場合は前年度12月までに）研究科長に大学院早期修了を申し出ることができる。 (1) 過去5年以内に学術雑誌に掲載された論文1点の原本の提出。掲載が予定されている論文を添える場合は、学術雑誌の発行元が発行した採択決定の通知のメールまたは手紙の写しを提出 (2) 国内外の演奏・作曲コンクールにおいて、最優秀賞に相当する賞を受賞した場合は、それを証明する書類の提出 (3) 音楽もしくは映像作品を、国内外で認知されたレーベルからリリースした場合は、それを証明する書類の提出 (4) 国内外で認知された学会においてプレゼンテーションした場合は、タイトルと発表者の名前、日付等が掲載されている公式の印刷物の提出 (5) 上記（1）～（4）以外の形態であっても、第三者による評価を得て顕著な業績を挙げたことが認められる者
演 奏	修了できる時期は入学年度末の3月、あるいは2年次目の9月である。いずれも修了を希望する月の9か月前まで（＊）に、所定の申請用紙に必要事項を記入し、研究科長あてに申請するものとする。その際、以下の1）及び2）の書類の添付が必須となる。 1）実技担当者からの推薦書 2）以下のいずれかを証明する書類 ・国際コンクールにて上位に入賞 ・国内における大規模かつ難易度の高いことで知られるコンクールにて上位に入賞（ただし、学生コンクールは除く） ・音楽界の識者（複数名）からの高い評価を受けていること ・過去5年の間に個人リサイタルを3度以上開催していること 専攻での書類審査のうえ、合格した学生については専任教員3名以上による演奏審査を行い、並はずれた実力が明らかに認められた場合には、大学院研究科委員会での承認を経たうえで、早期修了の候補者となることができる。 ＊）入学年度末の3月に修了することを希望する場合には入学年度の6月末まで、2年次目の9月に修了することを希望する場合は入学年度の12月末まで。

上記以外の専攻については、個別に対応します。利用にあたっては各専攻教務委員に相談してください。

博士前期課程・修士課程

修了要件・履修方法等

各研究科の指示に従ってください。（人文科学研究科 p.34、国際交流研究科 p.46、音楽研究科 pp.62～63）

修士論文（人文科学研究科・国際交流研究科[※]）／修士研究・修士副論文（音楽研究科）

※国際交流研究科において、修士レポートを選択した者は pp.50～51 を参照してください。

1. 提出資格

下記の要件を満たした者に修士論文または修士研究・修士副論文（以下「修士論文等」という。）を提出する資格が認められます。

在学期間	博士前期課程・修士課程に1年以上在学すること。
修得単位数等	修士論文等を提出しようとする学期の前学期終了時までに、修了要件単位を20単位以上修得すること。

2. 題目届の提出

修士論文等を提出しようとする者は、所定の期日までに、指導教授・指導の教員の承認印を得た上で、題目届を提出しなければなりません。

なお、音楽芸術専攻生の「修士制作」選択者は、修士制作、修士副論文それぞれの題目届を提出しなければなりません。

	人文科学研究科・国際交流研究科	音楽研究科
期限	2019年11月8日（金）	2019年10月11日（金）
場所	教務課	山手事務室

3. 修士論文等の提出

次のとおり提出してください。

	人文科学研究科・国際交流研究科	音楽研究科
期限	2020年1月7日（火）～9日（木） 各日11：00～16：00 提出時間厳守	2019年12月4日（水）～6日（金）
場所	教務課	山手事務室
部数	1編1部 [※] ※枚数や様式は各研究科の指示に従うこと（人文科学研究科 p.36、国際交流研究科 p.49、音楽研究科 p.66）	

【提出上の注意】

- （1）本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- （2）郵送等による提出は一切認められません。
- （3）病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由（「学生要覧」参照）に準じて代理人提出が認められることがあります。教務課に連絡のうえ、指示を受けてください。
- （4）提出された論文等は返却しません。
- （5）この他にも必要に応じて論文等のコピーの提出を求めることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

4. 審査基準

各研究科の該当箇所を参照してください。(人文科学研究科 p.36、国際交流研究科 p.50、音楽研究科 pp.68～69)

最終試験

修士論文等を提出した者は、当該年度の1月下旬～2月中旬に最終試験を受けるものとします。詳細については各研究科の指示に従ってください。(人文科学研究科 p.37、国際交流研究科 p.52、音楽研究科 p.67)

9月修了

(1) 9月修了希望届

2019年度9月修了を希望する者は、次の期限までに「9月修了希望届」(教務課、山手事務室備付)を教務課又は山手事務室に提出してください。

「9月修了希望届」提出期限	2019年4月12日(金)
---------------	---------------

(2) 2019年度9月修了希望者に係る日程

「修士論文・修士研究・修士副論文題目届」提出	期限	2019年5月10日(金)
	提出場所	教務課、山手事務室
「修士論文・修士研究・修士副論文」提出	日時	2019年7月3日(水)～5日(金) 各日11:00～16:00 最終日のみ11:00～13:00 提出時間厳守
	提出場所	人文科学研究科・国際交流研究科:教務課 音楽研究科:山手事務室
最終試験期間		2019年7月下旬～8月初旬
9月修了者発表・成績通知		2019年9月11日(水)
9月学位授与式		2019年9月25日(水)

博士後期課程（人文科学研究科・国際交流研究科）

修了要件・履修方法等

各研究科の指示に従ってください。（人文科学研究科 p.38、国際交流研究科 p.55）

博士の学位申請のプロセス（本学の大学院博士課程在籍者）

博士の学位申請論文を提出しようとする者は、「学位申請論文提出資格確認願」一式を提出し、学位申請論文提出資格審査判定に合格しなければなりません。再入学して博士の学位申請論文を提出しようとする者も同様です。

9月 修了希望者	3月 修了希望者	手続内容	
		在籍者	再入学者
1月	6月	学位申請論文提出資格確認願の提出	再入学願 [※] の提出 ※学士申請論文提出資格確認願を兼ねる
2月	7月	資格審査委員会における資格審査	
3月	9月	学位申請論文提出資格審査判定	再入学判定
判定合格者のみ ↓			
4月	10月		再入学
6月	12月	博士の学位申請論文提出	
7～8月	1～2月	最終試験及び審査委員会での審議	
9月	3月	研究科委員会での判定及び学長への報告・学位授与の決定	
		学位記の授与	
学位授与から1年以内		博士の学位申請論文公表	

博士の学位申請論文

1. 提出資格

下記の要件を満たした者は、博士後期課程修了予定年次に博士の学位申請論文を提出することができます。また、下記の要件を満たして退学した者も、再入学することにより博士の学位申請論文を提出することができます。

在学期間	大学院に4年*以上在学すること。 *修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む
修得単位数等	「博士論文指導」を含む修了要件単位を38単位以上修得すること（又は修得見込みであること）。
業績	研究科・専攻において定められた研究業績があること。（人文科学研究科 p.41）

2. 学位申請論文提出資格確認願の提出

博士の学位申請論文を提出しようとする者は、次のとおり書類等を提出のうえ予め審査を受け、学位申請論文提出資格を得る必要があります。学位申請論文提出資格を得た者は、資格を得た後1年以内に「博士の学位申請論文」（本論文）を提出しなければなりません。

名称	様式、部数等
学位申請論文提出資格確認願*	各研究科が定める様式 (人文科学研究科 p.40、国際交流研究科 p.57)
履歴書	本学所定 4部
業績書	本学所定 4部

*再入学して博士の学位申請をしようとする者は「再入学願」がこれを兼ねる。

	9月修了希望者	3月修了希望者
提出期限	2020年度から運用	2019年6月14日（金）
提出場所	教務課	
判定可否	2020年度から運用	2019年9月11日（水）

3. 博士の学位申請論文（本論文）の提出

博士の学位申請論文を含め次の書類等を提出しなければなりません。

名称	様式等
博士学位申請書	本学所定
博士の学位申請論文	1編4部 ※枚数や様式は各研究科の指示に従うこと（人文科学研究科 p.41、国際交流研究科 p.58）
論文要旨	4部
論文目録	本学所定 4部
履歴書・業績書	本学所定 4部

提出期限、場所は次のとおりです。

	9月修了希望者	3月修了希望者
期限	2020年度から運用	2019年12月16日（月）～20日（金） 各日11：00～16：00 提出時間厳守
場所	教務課	

【提出上の注意】

修士論文・修士研究・修士副論文の提出上の注意（p.22）と同様です。

4. 審査基準

各研究科が定めています。（人文科学研究科 p.41、国際交流研究科 p.58）

最終試験

博士の学位申請論文を提出した者は、当該年度の所定期間（下表参照）に最終試験を受けるものとします。詳細については各研究科の指示に従ってください。

9月修了希望者	2020年度から運用
3月修了希望者	2020年1月～2月

博士の学位申請論文の撤回

博士の学位申請論文の提出後、最終試験実施日から7日後まで、撤回を申し出ることができます。撤回の必要がある場合は、指導教授又は教務課に相談してください。

博士課程に在籍しない者の提出

本学の大学院博士課程に在籍しない者は、本学学位規則第13条（博士課程を経ない者の博士の学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料）の規定するところにより博士の学位申請論文を提出することができます。

本学の大学院博士課程に在籍せず博士の学位申請論文を提出しようとする者は、事前に教務課に相談のうえ、博士学位申請論文及び関係書類を提出してください。

提出書類	本学の大学院博士課程在籍者に準ずる。
提出期限	本学の大学院博士課程在籍者の「学位申請論文提出資格確認願」の提出期限に準ずる。

審査手数料

博士の学位申請を行う者は、「大学院博士学申請論文等の審査手数料に関する内規」に基づき、次のとおり審査手数料を納付する必要があります。

本学大学院博士課程在籍者	無料
本学大学院博士課程に在籍しない者	200,000円

※2016年度以前入学者のうち退学した者で博士の学位申請論文の提出を希望する者の手続等については、2016年度大学院要覧を参照してください。

学修支援

TA（ティーチング・アシスタント）制度

ティーチング・アシスタント（TA）制度は、大学院の学生に教育・研究能力を高める機会を提供すること、学部教育効果を高めることを目的としています。概要は次のとおりです。

応募資格	本学博士前期課程、博士後期課程に在籍する学生。詳細は各研究科が募集要項にて指示します。
担当業務	担当教員の指示に従い、学部専門科目の実習・演習・講義等において教育業務を補助すること。学生の理解度促進のための指導や支援も経験できます。
募集時期	前期科目：2月、後期科目：6月 募集要項は、FerrisPassport に掲示します。
選考・採用	各専攻が指定する対象科目ごとに選考を経て採否が決定されます。
窓口	大学総務課 関心のある学生は、募集要項を確認の上、問い合わせください。

人文科学研究科

博士前期課程

博士後期課程

人文科学研究科の人材養成目的

人文科学の領域に関する理論及び応用を教授研究し、優れた研究能力を持つ研究者、高度に専門的な見識と能力を備えた職業人、多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養を身に付けた社会人を養成する。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

博士前期課程

英語英米文学専攻

◆ディプロマ・ポリシー

英語英米文学の領域における高度な専門知識と研究方法を修得し、多様化する社会に専門的見地から社会人・職業人として貢献できる証として、修士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して「修士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

英語英米文学の領域において、文学、文化、社会、歴史、英語学の分野における高度な専門的知識と方法を、少人数制の専門教育と修士論文執筆を通じて修得し、社会人・職業人として社会に貢献できる高度な能力及びその基礎となる豊かな教養を養う。

日本語日本文学専攻

◆ディプロマ・ポリシー

日本語日本文学に関する体系的知識と高度な研究方法を身に付け、先行研究の蓄積をふまえ、明確な根拠と一貫した論理性を備えた、論旨の明快な修士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して、「修士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学各分野の授業科目を幅広く配置しつつ、個々の学生の多様な興味に応じた細やかな指導体制をとることによって堅実な研究能力を養う。在学中の研究発表を義務とし、常に意見交換を行いながら社会的貢献の期待できる人材を養成する。

コミュニケーション学専攻

◆ディプロマ・ポリシー

コミュニケーション学の領域における高度な専門知識と研究方法・技法を修得し、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とし、多様化する社会にその専門的見地から社会人・職業人として貢献できる能力を持つ者で、修士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して、「修士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学の領域において、多文化・共生コミュニケーションの視点に立脚し、少人数の専門研究と修士論文の作成を通じて、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とし、専門的見地から多様化する社会を理解し、社会人・職業人として社会的貢献ができる高度の能力を養う。

博士後期課程

英語英米文学専攻

◆ディプロマ・ポリシー

英語英米文学の領域において自立した研究者として必要とされる高度な専門知識と研究方法・技法を修得し、多様化する社会に専門的見地から職業人・研究者として貢献できる証として、独創的な見地で新たな研究領域を開拓した博士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して「博士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

英語英米文学の領域において、文学、文化、社会、歴史、英語学の分野における高度な専門的知識と方法論を、少人数制の専門教育と博士論文執筆を通じて修得し、職業人・研究者として社会に貢献できる高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う。

日本語日本文学専攻

◆ディプロマ・ポリシー

日本語日本文学に関する深い学識を身に付け、論証に必要な専門的情報を自主的に収集・処理し適切に立論された、独創的な発想で新たな研究領域を開拓した博士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者を、自立した研究者とみなして「博士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学各分野の指導教授を揃え、学生の独創性を尊重し育てる、丁寧な個別的研究指導体制をとる。教員による指導計画書と学生による「研究計画書」「研究報告書」とに基づき、短期目標を意識させつつ学会発表・投稿を促すことで高度の研究能力を養成する。

コミュニケーション学専攻

◆ディプロマ・ポリシー

コミュニケーション学の領域において、自立した研究者として必要とされる高度な専門知識と研究方法・技法を修得し、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とし、多様化する社会にその専門的見地から職業人・研究者として貢献できる能力を持つ者で、独創的な発想で新たな研究領域を開拓した博士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に「博士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学の領域において、多文化・共生コミュニケーションの視点に立脚し、少人数の専門研究と博士論文の作成を通じて、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とし、専門的見地から多様化する社会を理解し、職業人・研究者として社会的貢献ができる高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う。

カリキュラムの説明

人文科学研究科 英語英米文学専攻

英語英米文学専攻博士前期課程・後期課程では、英米文学、英米文化、英米歴史・社会、英語学に関する高度な専門知識と研究方法を習得し、日本国内のみならず国際的な諸状況の解決にも主体的に貢献できる人間の育成を目的としている。

英語英米文学専攻が教育目標としてきたのは、キリスト教精神に基づき、女性の立場に立ち、国際的な視野をもった人材の養成である。こうした見地に立ち、博士前期課程では英語圏文学・文化のテキスト精読といった基礎的研究をもとに、英米文学理論、児童文学研究、第二言語習得理論など多岐にわたる関連諸学を設置している。

博士前期課程では、具体的には選択必修Ⅰ（コースワーク:研究科目）及び選択必修Ⅱ（リサーチワーク:演習科目）に英語圏（イギリスおよびアメリカ）の文学、文化、歴史・社会及び英語学といった広範囲にわたる科目を設置している。また、これらに加え、選択必修Ⅱ（リサーチワーク）には修士論文執筆のために「英語論文演習」を設置している。

選択必修Ⅲでは、修士論文指導の科目を設け、修士論文執筆のための道筋を作っている。

博士後期課程では、博士前期課程の学びをさらに発展させ、博士前期課程と同様の分野に特別研究科目を設置、選択必修Ⅱでは博士論文作成のための指導時間を設けている。

人文科学研究科 日本語日本文学専攻

日本語日本文学専攻博士前期課程・後期課程では、世界の中の日本語学・日本文学という視野に立ち、日本語・日本文学・日本文化に関する高度な専門知識と研究方法・技法を習得し、その専門的見地から多様化する社会に、社会人・職業人として貢献できる高度の能力を養うことを目的としている。

とりわけ、本学の人材養成目的の重要な根幹を成すキリスト教、ジェンダー、多文化理解の視点を背景として、博士前期課程においては、古典籍の翻刻・注釈、文献資料の精読といった基礎的研究をもとに、文学理論、フェミニズム文芸批評、歴史研究、美術・宗教等の文化研究等、多岐にわたる関連諸学を学び、修士論文を作成するためのカリキュラムを策定している。

具体的には、博士前期課程においては、選択必修Ⅰにコースワークとして日本文化研究を始めとして、上代・中古・中世・近世・近現代・日本語学・日本語教育学の各分野における研究科目を設置している。また選択必修Ⅱにリサーチワークとして、上代・中古・中世・近世・近現代・日本語学各分野における演習科目を設置している。また選択必修Ⅲとしては、修士論文指導という論文指導の時間を設け、修士論文完成までの道筋を作っている。

博士後期課程においては、前期課程での学びをさらに発展させる形で、選択必修Ⅰに古代文学特別研究、中近世文学特別研究、近世文化特別研究、近代文学特別研究、日本語学特別研究、日本語教育学特別研究という科目を設置し、選択必修Ⅱに博士論文作成のための指導の時間を設置している。

人文科学研究科 コミュニケーション学専攻

コミュニケーション学専攻博士前期課程・後期課程では、多文化化する日本国内とポストコロニアル化する世界情勢を見据えながら、行政機関、NPO、メディア・情報などコミュニケーション関連分野の企業、研究機関などで、コーディネート、創造、取材・編集、研究、教育のできる専門の人材を養成することを目的としている。そのため、人間の存在、社会関係、ジェンダー、心理、言語、文化、情報メディアなど幅広い分野について、次の4つのコア領域を足場に、論理的・実証的な研究を行う。

- ① 心理コミュニケーション分野
対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション等に関する調査研究
- ② 社会コミュニケーション分野
情報、教育、マイノリティー問題、多文化社会、現代思想等に関する調査研究
- ③ 言語コミュニケーション分野
方言学、音声学、社会言語等に関する調査研究
- ④ 文化コミュニケーション分野
身体、メディア文化、ジェンダー、表象文化等に関する調査研究

博士前期課程では、選択必修Ⅰ（コア科目）において各分野の研究科目を配当し、選択必修Ⅱ（コア科目）で各分野の演習科目が配当されている。選択必修Ⅲとしては修士論文指導が設置されており、修士論文完成までの道筋をつくっている。さらに、社会科学的な調査・研究方法の習得を重視するため、実習科目の「リサーチメソッド」が設置されている。学部において社会調査士の資格を取得している者は、リサーチメソッドの履修により専門社会調査士の資格を得ることができる。また、隣接分野科目として、北米の歴史や文化（社会・文化領域）、英語学や日本語学（言語分野）等の研究科目・演習科目を配置し、コア科目の発展・応用研究を可能にしている。

博士後期課程では、選択必修Ⅰにおいて各分野の特別研究科目が配当され、選択必修Ⅱで博士論文作成のための指導が行われる。

人文科学研究科 共通科目

各専攻の選択科目として、「アジアの文化とジェンダー」、「ヨーロッパ現代思想」、「キリスト教の現代的課題」の3科目を設置し、本学の人材養成目的の地盤を固めている。

人文科学研究科 博士前期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の (1)、(2) 全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間
2年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
 - ① 「修士論文指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
 - ② 修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.21参照）。

必修単位数については次のとおり定めます。

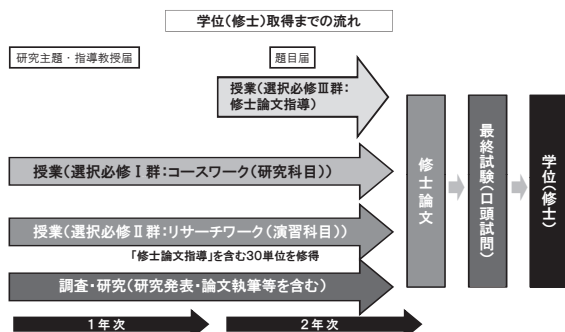
科目区分	単位数	備 考
選択必修Ⅰ群	4単位以上	「修士論文指導」を含む30単位
選択必修Ⅱ群	8単位以上	
選択必修Ⅲ群「修士論文指導」	4単位	
合 計	30単位	

履修方法

各専攻所定の授業科目の履修方法

指導教授による指導のもと、次のとおり選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ群から履修し、修士論文を提出します。開講科目の詳細は pp.72～78「開講科目表」を確認してください。

各学期の履修科目については、指導教授の承認を得て履修登録を行ってください。



※科目担当者が同じ選択必修Ⅰ群：コースワーク（研究科目）と選択必修Ⅱ群（演習科目）の科目は、原則、隔年で開講します。

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

p.16を参照してください。

同一授業科目の重複履修

(1) 同一担当者の重複履修

同一担当者による同一授業科目を、年度を代えて重複履修し、その修得単位を修了に必要な単位とすることを希望する場合は、指導教授の承認を得た後、各自で履修登録を行ってください。

(2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修して修得した単位を修了に必要な単位とすることができます。

「修士論文指導」の履修

(1) 履修時期及び必修単位数

修了年次の前期と後期に、それぞれ2単位ずつ履修してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者 (p.102) の指示を受けてください。

(2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位までです。

指導教授・研究主題

各専攻の「修士論文指導」担当者が指導教授となります。

指導教授は、修士論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

(1) 手続

学生は、入学学期の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届」（教務課備付）によって、①指導教授及び②研究主題を教務課に届け出なければなりません。

「研究主題・指導教授等届」提出期限	2019年4月15日（月）
-------------------	---------------

(2) 「修士論文指導」の履修

学生は、指導教授担当の「修士論文指導」を履修することとします。

(3) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(4) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

指導教授一覧

英語英米文学専攻

英語圏の文学・文化	近 藤 存 志
	富 郷 剛
英語圏の歴史・社会	梅 崎 透
	由 井 哲 哉
英語学	中 川 正 紀
	大 畑 甲 太
	饒平名 尚 子

日本語日本文学専攻

日本上代文学	松 田 浩
日本中世文学	竹 内 正 彦
日本近世文学	谷 知 子
日本近現代文学	吉 田 弥 生
日本語学	佐 藤 裕 子
日本語教育学	島 村 輝
	勝 田 耕 起
	田 中 里 奈

福 永 保 代 世

コミュニケーション学専攻

心理コミュニケーション	文化心理学 認知社会心理学	潮 村 公 弘
社会コミュニケーション	国際社会学 国際移動論	小ヶ谷 千 穂
	メディア論 現代思想	高 田 明 典
言語コミュニケーション	ジェンダー教育学	井 上 恵美子
	方言学 社会言語学 音声学	齋 藤 孝 滋
文化コミュニケーション	レトリック 表象文化論 批評理論	藤 巻 光 浩
	マスコミュニケーション学 社会学、女性学	諸 橋 泰 樹

修士論文

提出資格

p.22を参照してください。

「修士論文題目届」の提出

p.22を参照してください。

「修士論文」の提出

p.22を参照してください。

【修士論文の枚数】

英語英米文学専攻	指導教授の指示による
日本語日本文学専攻	A4サイズ1200字詰 40枚以上
コミュニケーション学専攻	指導教授の指示による

学位論文審査基準（修士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切であること。
- (2) 精深な学識に基づき、先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示されていること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。
- (2) 審査委員による最終試験を課す。
- (3) 審査の結果は、人文科学研究科委員会において審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

最終試験

実施期間については p.23 を参照してください。その他については次のとおりです。

- (1) 最終試験は、筆記又は口頭によって行います。
- (2) 最終試験の方法等は、各専攻が定めます。

専門社会調査士資格認定

社会調査士資格を有する者で、コミュニケーション学専攻において「リサーチメソッド1」（調査計画演習）、「リサーチメソッド2」（多変量解析演習）、「リサーチメソッド3」（質的調査法演習）の単位を修得し、社会調査士資格認定機構に申請した場合、専門社会調査士の資格が認定されます。専門社会調査士の資格取得に関心がある人は、専攻からの掲示等に注意するようにしてください。専門社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人 社会調査協会の Web サイト (<http://jasr.or.jp>) で見るすることができます。

人文科学研究科 博士後期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

(1) 在学期間

大学院に5年以上*在学すること。

*修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。

(2) 修得単位数等

①「博士論文指導」を含む所定の授業科目を38単位**以上修得すること。

②博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。

**修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、その課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします（p.21参照）。

また、必修単位数については次のとおり定めます。

科目区分	必修単位数
選択必修Ⅰ群	4単位
選択必修Ⅱ群 「博士論文指導」	4単位
合 計	8単位

履修方法

各専攻所定の授業科目の履修方法

選択必修Ⅰ、Ⅱ群から履修することとします。

詳細は開講科目表の履修方法欄を参照してください。

各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

前期課程等の授業科目の履修

前期課程等の授業科目を履修する場合は、当該科目を所管する研究科等の承認が得られた科目に限り、履修が認められます。詳しくは、p.16の「他専攻、他研究科、学部・学部の授業科目の履修」を参照してください。

なお、この場合、修了に必要な単位としては認められません。

「博士論文指導」の履修

(1) 履修時期

履修登録は、原則として修了予定年度（3年次）の前期に行い、前期→後期の順に履修してください。

休学・留学により規定された履修年次・学期に履修することができない場合は、年度を超えて履修することが認められます。該当者は、教務責任者（p.102）の指示を受けてください。

後期・前期派遣の特別聴講学生が年度を超えて履修する場合は、前期に履修登録してください。

(2) 履修上の注意

「博士論文指導」の重複履修はできません。

学生は、指導教授担当の「博士論文指導」を履修することとします。

指導教授・研究主題

指導教授は、博士の学位申請論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

学生は、入学学期に①指導教授及び②研究主題を定めます。

(1) 研究主題・指導教授の届出

学生は、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、指導教授名及び研究主題を教務課に届け出なければなりません。

「研究主題・指導教授等届」提出期限 2019年4月15日（月）

(2) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(3) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員（指導教員）を定めることがあります。

指導教授一覧

英語英米文学専攻

英語圏の文学	富 樫 剛
	向 井 秀 忠
	由 井 哲 哉
英語圏の文化	近 藤 存 志
英語圏の歴史・社会	梅 崎 透
英語学	大 畑 甲 太

日本語日本文学専攻

日本上代文学	松 田 浩
日本中古文学	竹 内 正 彦
日本中世文学	谷 知 子
日本近世文学	吉 田 弥 生
日本近現代文学	佐 藤 裕 子
日本語学	島 村 輝
	勝 田 耕 起

コミュニケーション学専攻

心理コミュニケーション	文化心理学 認知社会心理学	潮 村 公 弘
社会コミュニケーション	国際社会学 国際移動論 メディア論 現代思想	小ヶ谷 千 穂 高 田 明 典
言語コミュニケーション	方言学 社会言語学 音声学	齋 藤 孝 滋
文化コミュニケーション	マスコミュニケーション学 社会学、女性学	諸 橋 泰 樹

研究計画・研究報告

学生は、毎年度、年度初めの所定の期日までに「研究計画書」（教務課備付）を提出しなければなりません。
また、年度末の所定の期日までに「研究報告書」を提出しなければなりません。

(1)「研究計画書」の提出

期限	2019年4月17日（水）
提出先	教務課

(2)「研究報告書」の提出

期限	2020年1月16日（木）
提出先	各自の指導教授
書式	各専攻が指定。なお、学術雑誌などに発表した論文の抜刷を、研究報告書に代えることができます。

博士の学位申請論文

提出資格

p.24を参照してください。

提出の手続

p.24を参照してください。

「博士の学位申請論文」の提出

博士の学位申請論文（「本論文」）提出にあたっては、次の手順で予め「予備論文」の審査を受け、合格する必要があります。

(1)「学位申請論文提出資格確認願」の提出

p.25を参照してください。

【学位申請論文提出資格確認願における研究科が定める様式書類】

	英語英米文学専攻	日本語日本文学専攻	コミュニケーション学専攻
書類	博士学位申請論文計画書	博士学位申請論文草稿	博士学位申請論文計画書
内容	(1) 題目 (2) 目的と方法 (3) 先行研究の概要 (4) これまでの研究成果の要約及び予想される知見 (5) 博士学位申請論文の構成（各章のタイトル）及び各章の記載内容の計画	(1) 博士学位申請論文草稿 (2) 論文要旨	(1) 題目 (2) 目的と方法 (3) 先行研究の概要 (4) これまでの研究成果の要約及び予想される知見 (5) 博士学位申請論文の構成（各章のタイトル）及び各章の記載内容の計画
分量	和文6,000～8,000字以内、 英文4,000語以内	現状の本論文に準ずる 和文 A4サイズ1,200字詰70枚以上	和文10,000字以上

- (2)「博士の学位申請論文」(本論文)の提出
p.25を参照してください。

【博士の学位申請論文の枚数】

英語英米文学専攻	和文	400字詰	300枚以上
	英文	A4サイズ ダブルスペース	150枚以上
日本語日本文学専攻	和文	A4サイズ 1200字詰	70枚以上
コミュニケーション学専攻	和文	指導教授の指示による	

*作成様式等詳細については、別に定めます。

【各専攻における提出要件】

各専攻において下記のとおり博士の学位申請論文として提出するための要件が定められています。

英語英米文学専攻	専攻の指示による
日本語日本文学専攻	博士の学位申請論文を提出する前に、専攻の認める日本学術会議協力学術研究団体に登録されている学会等の、査読を有する機関誌において、当該分野における研究論文が1本以上掲載されていることが必要です。
コミュニケーション学専攻	専攻の認める、査読を有する機関誌において、当該分野における研究論文が1本以上掲載されていることが必要です。

学位論文審査基準（博士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切で、さらに独創性があること。
- (2) 先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に、かつ自主的に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示され、その結論が独創的であること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野において研究を進展させる学問的価値があること。また、豊かな学識を有し、自立して研究活動を行うことができ、専門的な業務に従事するのに必要な能力を示すものであること。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。なお、副査のうち、1名は学外者とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、人文科学研究科委員会において審議し、博士の学位を授与することの可否を議決する。

最終試験

p.25を参照してください。

国際交流研究科

博士前期課程

博士後期課程

国際交流研究科の人材養成目的

国際交流の領域に関する理論及び応用を教授研究し、優れた研究能力を持つ研究者、高度に専門的な見識と能力を備えた職業人、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた社会人を養成する。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

博士前期課程

◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域における高度な専門的見識・能力と、グローバリゼーションの時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付け、国際社会のさまざまな場面で社会人・職業人として独創性・創造性ならびに優れた判断力を発揮できる者に「修士（国際交流）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

国際交流の領域に関する理論及び応用を「グローバリゼーション研究」「グローバリゼーションと地域社会」「グローバリゼーションと日本」の3研究群に分けて教授し、各自のテーマに即した研究群を選択して研究を進めさせるとともに、専門分野の枠を越えた総合的知識を獲得させ、社会人・職業人として必要な国際社会に関わる専門的見識と高い教養を養う。

博士後期課程

◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域において、自立した研究者として必要とされる高度な専門的見識・能力と、グローバリゼーションの時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識・考察力を身に付け、国際社会のさまざまな場面で職業人・研究者として独創性・創造性ならびに優れた判断力を発揮できる者に「博士（国際交流）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

国際交流の領域に関する高度な理論及び応用を教授し、各自のテーマに即した研究群を選択して研究を進めさせるとともに、専門分野の枠を越えた総合的知識・考察力を獲得させ、職業人・研究者として必要な国際社会に関わる高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う。

カリキュラムの説明

国際交流研究科 国際交流専攻

グローバリゼーションは歴史の巨大な変化と共に進展し始め、今やそこには多くの難題が立ち現れるに至った。階層間、地域間、民族間などでの格差の拡大や、地球規模での環境破壊など。しかしそれらは直ちに均質な世界が成立することを意味しない。現状をとらえるためには、グローバリゼーションに組み込まれつつある世界の各地域についての観察も必要である。私たちが生活の本拠をおく日本社会もまたそのような地域の一つである。それゆえ現代日本が直面する諸問題にも取り組まなければならない。

以上のような考えから、本研究科前期課程のカリキュラムはグローバリゼーションに関わる3つの科目群から構成される。第1群「グローバリゼーション研究」では現代社会、国際関係、社会運動の関係において理論的分析力の涵養をはかり、第2群「グローバリゼーションと地域社会」では世界の各地域社会、各地域文化との関係においてローカル・ノリッジの獲得に力点を置き、第3群「グローバリゼーションと日本」では日本と諸外国の関係において、身近な日本を対象として国際的な関連の中にある社会諸現象の具体的な理解を促進する。院生は一つの群に軸足をおきつつ、他の2群にも目を配り、全体を大きく見渡すことが求め

られる。また各群にキリスト教関連科目がおかれていることは、全体を統一する視点に、本学の建学の精神が位置づけられていることを表している。

世界が歩みつつある新しい状況の中で適切に対処するためには、社会諸科学の知と具体的生活体験の接触と交流によって、新しい学問的知見を求めていかなければならない。すなわち職業生活や社会生活を体験している者はそこで遭遇した諸問題を諸科学と、諸科学をいわば座学として学んできた者はそれらを実社会の現実の問題と、積極的に対比し、ぶつけ合うことによってこそ、新たな地平が拓かれるのである。そのような知と実践の相互刺激をめざし、本研究科では社会人を積極的に受け容れ、研究者との切磋琢磨をはかっている。またジェンダー関連科目を必修にした上で、男女共学制を実施している。

さらに、研究を文献や資料に裏付けられた確実なものにするために、「文献講読」、「言語演習」などの科目がおかれている。また研究を現実の体験や理解によって裏付けるためには「国際交流実務研修」があり、海外の様々な団体・機関などで行った活動を単位認定の対象としている。

前期課程においては、国際交流に関わる領域で、専門的な見識と高い教養を備えた職業人の養成を図る。たとえばいくつかの専門性にまたがる実践応用分野で、現地のフィールド調査を行い、現地の住民に何が大切であるかを判断できる人材である。

また本研究科後期課程では、みずからの設定した研究テーマについて高度に専門的な理解を深めることを目的とする。そのために指導教授の「特別研究」を履修し、毎年度始めに研究計画書を、毎年度末に研究報告書を作成することが求められる。「学位申請論文」を提出するためには、まず「学位申請論文草稿」と「論文要旨」の提出が義務づけられる。これにより総合かつ学際的視点と独創性を備えた研究を実現させることを目指す。

後期課程を修了した者は、専門知と実践知を媒介し、従来の専門諸分野の越境とそれによる新たな総合を特徴とする研究者あるいは専門研究職ポストに就くことが期待される。

国際交流研究科 博士前期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)を満たす必要があります。

- (1) 在学期間
2年以上在学すること。長期履修学生は4年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
 - ① 「修士論文指導」または「修了レポート指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
 - ② 修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）または特定の課題についての研究の成果（「修了レポート」2編）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.21参照）。（長期履修学生を除く。）

必修単位数については次のとおり定めます。

ただし、下記の①と②、①と④については1つの科目で同時に該当するものとすることができます。

また、指導教授を変更した場合、変更前に修得した単位も①に該当することとします。

「修士論文」選択者

	科目区分	単位数	備考
①	指導教授の担当科目	4単位	「修士論文指導」は含まれません。
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授が担当する「修士論文指導」	合計4単位	
合 計		30単位	

「修了レポート」選択者

	科目区分	単位数	備考
①	指導教授の担当科目	4単位	「修了レポート指導」は含まれません。
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授が担当する「修了レポート指導」	合計4単位	
④	「自分史の書き方・時代の見方」	2単位	
合 計		30単位	

履修方法

各学期の履修科目については、指導教授の承認を得て履修登録を行ってください。

履修の流れ

本課程では、指導教授による指導のもと次のとおり修士論文提出までのスケジュールを定めており、毎学期研究発表会での発表が義務付けられています。

2年間の研究発表スケジュール及び論文を提出するまでの流れ

スケジュール			研究会での達成目標
研究計画 構想を立てる	1 年次前期	4月	「研究主題・指導教授届」提出
		7月	研究発表1 研究計画書 自分のテーマと研究プランを発表
先行研究 中間報告	1 年次後期	12月	研究発表2 先行研究の整理と問題点の指摘 基礎的研究・調査報告
	2 年次前期	7月	研究発表3 執筆状況に関する中間報告 研究要旨の発表
決定稿	2 年次後期	11月	「修士論文題目届」提出 研究発表4 提出に向け最終発表
		1月	「修士論文」提出
最終試験		2月	「『グローバル』掲載要旨原稿」提出 「口述試験の要旨」提出

・発表会は、学内関係者（学部学生、大学院生、教職員）の聴講を認めています。

開講予定

一部の科目を除き、2年に1回開講する形式をとっているため、別表「2019・2020年度開講予定表」を参照して、2年間のプランをたてて履修してください。

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

p.16を参照してください。

同一授業科目の重複履修

(1) 同一担当者の重複履修

同一担当者による同一授業科目を、年度を代えて重複履修し、その修得単位を修了に必要な単位とすることを希望する場合は、指導教授の承認を得た後、各自で履修登録してください。

(2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修して修得した単位を修了に必要な単位とすることができます。

「修士論文指導」「修了レポート指導」の履修

(1) 履修時期及び必修単位数

修了年次の前期と後期に、それぞれ2単位ずつ履修してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者 (p.102) の指示を受けてください。

(2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位のみです。

(3) 修了レポートの対象者

「修了レポート」を選択できるのは、社会人（大学院入学時点で大学卒業後3年の社会的経験を経た者）のみとします。

その他履修上の注意

(1) 長期履修学生が履修登録できる単位数

年間8単位を超えないものとします。

(2) 学部授業科目の履修（女子のみ）

8単位まで修了要件として認められます。

ただし、長期履修学生が学部授業科目を履修する場合は、年間4単位を上限とします。

履修及び手続き方法については、p.16を参照してください。

指導教授・研究主題

「修士論文指導」担当者が指導教授となります。

指導教授は、修士論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

(1) 手続

学生は、入学学期の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届」（教務課備付）によって、①指導教授、②研究主題、③「修士論文」コースまたは「修了レポート」コースの別を教務課に届け出なければなりません。

「研究主題・指導教授等届」提出期限	2019年4月15日（月）
-------------------	---------------

(2) 「修士論文指導」の履修

学生は、指導教授担当の「修士論文指導」を履修することとします。

(3) 研究主題・指導教授等の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(4) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

指導教授一覧

第1群 グローバル ゼーション 研究	荒井 真
	杉之原 真子
	高雄 綾子
	高柳 彰夫
	春木 良且
	古内 洋平
	ベンヤミン D. ミドルトン
	和田 浩一

第2群 グローバル ゼーション と地域社会	上原 良子
	大野 英二郎
	木曾 順子
	金香 男
	田丸 理砂
	中塚 次郎
	原口 尚彰
	福島 仁
	矢野 久美子

第3群 グローバル ゼーション と日本	泉谷 陽子
	大西 比呂志
	寛 雅博
	齊藤 直
	佐藤 輝 (2019年度 特別研修)
	新城 道彦
	ヒガ, マルセーロ

修士論文

提出資格

P.22を参照してください。

「修士論文題目届」の提出

P.22を参照してください。

「修士論文」の提出

(1) 「修士論文」の提出

P.22を参照してください。

修士論文の提出に関しては、上記のほかに、研究科において次のとおり定められています。詳細は、研究科の指示に従ってください。

(2) 「修士論文」の様式

次の基準に従って作成してください。

	様式等
書式	A4サイズ 40字×30行
教務課提出の1編1部	共通の様式に製本して保管するので表紙はつけず袋に入れて提出してください。
審査用の3部	所定の黒い表紙をつけて提出してください。

(3) 審査用論文の提出

教務課提出用とは別に、国際交流学部共同研究室に審査用として3部（コピーも可）提出してください。なお、教務課提出の論文と審査用の論文の内容は同じものとし、手を加えてはなりません。

審査用の3部の提出日並びに提出場所

日時	2020年1月7日（火）～9日（木） 各日11:00～16:30 提出時間厳守
場所	国際交流学部共同研究室（8号館1階）

※教務課の提出時間と異なるので注意してください。

学位論文審査基準（修士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切であること。
- (2) 精深な学識に基づき、先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示されていること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、国際交流研究科委員会において審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

修了レポート

修了レポート選択者は、次の2編のレポートを提出するものとします。

名称	内容等
修了レポート1（経験と時代）	自己の社会体験（職業、家庭、社会、地域、外国等）を整理し、それを時代、社会の中に位置づけて考察するものです。
修了レポート2（テーマ研究）	通常の論文形式にのっとり、自分で設定したテーマについてまとめます。

修了レポート提出の時期

- ① 「修了レポート1（経験と時代）」は、1年次から提出することができます。
- ② 本課程に1年以上（長期履修学生については3年以上）在学し、かつ「修了レポート2（テーマ研究）」を提出しようとする学期の前学期終了時まで、修了要件単位を20単位以上修得した者は「修了レポート2（テーマ研究）」を提出することができます。

「修了レポート題目届」の提出

修了レポートを提出しようとする者は、所定の期日までに、指導教授の承認印を得た上で、修了レポート題目届を提出しなければなりません。

期限	2019年11月8日（金）
場所	教務課

「修了レポート」の様式

次の基準に従って作成してください。

	様式等
書式	A4サイズ 40字×30行
教務課提出の1編1部	共通の様式に製本して保管するので表紙はつけず袋に入れて提出してください。
審査用の2部	所定の黒い表紙をつけて提出してください。

「修了レポート」の提出

(1) 「修了レポート」の提出

日時	2020年1月7日（火）～9日（木） 各日11:00～16:00 提出時間厳守
場所	教務課
部数	1編1部

【提出上の注意】

- ① 本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- ② 郵送等による提出は一切認められません。
- ③ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由（学生要覧参照）に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。
- ④ 提出されたレポートは返却しません。
- ⑤ この他にも必要に応じてコピーの提出を求めることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

上記のほかに、研究科において次のとおり定められています。詳細は、研究科の指示に従ってください。

(2) 「審査用レポート」の提出

教務課提出用とは別に、国際交流学部共同研究室に審査用として2部（コピーも可）提出してください。
なお、教務課提出のレポートと審査用のレポートの内容は同じものとし、手を加えてはなりません。

審査用の2部の提出日並びに提出場所

日時	2020年1月7日（火）～9日（木） 各日11:00～16:30 提出時間厳守
場所	国際交流学部共同研究室（緑園8号館1階）

※教務課の提出時間と異なるので注意してください。

「修了レポート」の審査

修了レポートの審査は、主査1名及び副査1名以上により行われます。主査・副査は、国際交流研究科の研究科委員会において選任します。

最終試験

実施期間については p.23を参照してください。その他については次のとおりです。

1. 修士論文提出者

- (1) 最終試験は口述試験とし、論文審査の主査・副査がこれに当たります。
- (2) 試験を受ける者は、修士論文の要旨（4,000字程度）1部を、試験の前日までに指導教授に提出してください。

2. 修了レポート2（テーマ研究）提出者

「修了レポート2（テーマ研究）」を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は口述試験とし、レポート審査の主査・副査がこれに当たります。

「国際交流実務研修」

在学期間中に内外の国際機関、政府機関、公共機関、非政府組織（NGO／NPO）、企業等で活動し、その活動によって得た知見が、本研究科の教育・研究内容にふさわしいものであると認定された場合、その知見に対し単位を与える科目です。詳細は、シラバスを参照してください。

科目名称（単位数）	「国際交流実務研修」（2単位）
開講期	前期・後期
活動対象	① 3ヶ月以上、90時間以上であること。 ② 社会人院生が勤務先の職務に関して行う活動は対象としない。 ③ 有給（勤務・嘱託・アルバイト）は対象としない。

2019・2020 年度開講予定表

種 別	授業科目名	履修 年次	単位	担 当 者	2019		2020		備考
					前	後	前	後	
第1群 グローバリゼーション研究	グローバリゼーション研究総論	12	2	古内洋平	○				
	現代社会論	12	2	B.Middleton			○		
	比較憲法論	12	2	(未定)					☆
	法秩序と現代社会	12	2	荒井真	○				
	情報技術と現代社会	12	2	春木良且	○		○		
	ジェンダー論	12	2	田丸理砂	○				☆
	国際政治論	12	2	古内洋平			○		
	国際機構論	12	2	高柳彰夫			○		
	国際人権論	12	2	(未定)					☆
	国際平和論	12	2	(未定)					☆
	国際政治経済論	12	2	杉之原真子	○		○		
	開発経済論	12	2	高柳彰夫	○				
	地球環境論	12	2	佐藤輝	○				
	環境と持続可能性	12	2	高雄綾子	○				
	市民運動・NGO・NPO	12	2	(未定)					☆
	国際スポーツ論	12	2	和田浩一		○	○		
	文明間対話の可能性	12	2	(未定)					☆
	キリスト教の現代的課題	12	2	原口尚彰			○		
第2群 地域社会	地域社会研究総論	12	2	中塚次郎	○		○		
	ヨーロッパ地域社会研究	12	2	上原良子	○		○		
	北アメリカ歴史・社会研究1A	12	2	梅崎透			○		
	北アメリカ歴史・社会研究2A	12	2	中川正紀	○				
	ラテンアメリカ地域社会研究	12	2	ヒガ, マルセーロ			○		
	アジア地域社会研究	12	2	(未定)					☆
	南アジア地域社会研究	12	2	木曾順子	○		○		
	ヨーロッパ社会とキリスト教	12	2	原口尚彰		○			
	開発と地域社会	12	2	(未定)					☆
	家族と地域社会	12	2	金香男		○		○	
	ヨーロッパ文化論	12	2	大野英二郎	○		○		
	ラテンアメリカ文化論	12	2	(未定)					☆
	アジア文化論	12	2	福島仁	○		○		
	ヨーロッパ現代思想	12	2	矢野久美子	○		○		
	ヨーロッパの文化表象	12	2	(未定)					☆
	ヨーロッパの文化とジェンダー	12	2	田丸理砂	○				
	アジアの文化とジェンダー	12	2	(未定)					☆
第3群 グローバリゼーションと日本	日本近現代史研究総論	12	2	大西比呂志	○		○		
	日本歴史文化論	12	2	寛雅博		○		○	
	日中間の歴史と現在	12	2	泉谷陽子		○	○		
	日朝関係の歴史と現在	12	2	新城道彦	○		○		
	欧米の社会科学と日本の社会科学	12	2	B.Middleton	○				
	日本の近代と横浜	12	2	大西比呂志		○	○		
	国際交流特殊研究	12	2	非常勤教員					
	国際交流特殊研究	12	2	非常勤教員					
	国際交流特殊研究	12	2	非常勤教員					
	世界の中の日本国憲法	12	2	(未定)					☆
	日本社会とジェンダー	12	2	(未定)					☆
	日本社会と移民	12	2	ヒガ, マルセーロ		○			
	日本の環境問題	12	2	佐藤輝			○		
	キリスト教と日本社会	12	2	(未定)					☆
	日本経済の歴史と現在	12	2	齊藤直	○		○		

【備考欄】 ☆：2020年度以降担当者未定

種 別	授業科目名	履修 年次	単位	担 当 者	2019		2020		備考
					前	後	前	後	
	文献講読	12	2	中塚次郎					
	言語演習	12	2	大野英二郎		○			
		12	2	(未定)					☆
		12	2	福島仁		○			
		12	2	(未定)					☆
		12	2	非常勤教員					☆
	国際交流実務研修	12	2	高柳彰夫	○	○	○	○	
	自分史の書き方・時代の見方	12	2	大野英二郎		○	○		
	修士論文指導・修了レポート指導	12	2	古内洋平	○	○	○	○	
		12	2	高柳彰夫	○	○	○	○	
		12	2	ヒガ, マルセーロ	○	○	○	○	
		12	2	春木良且	○	○	○	○	
		12	2	福島仁	○	○	○	○	
		12	2	上原良子	○	○	○	○	
		12	2	荒井真	○	○	○	○	
		12	2	笥雅博	○	○	○	○	
		12	2	大野英二郎	○	○	○	○	
		12	2	中塚次郎	○	○	○	○	
		12	2	木曾順子	○	○	○	○	
		12	2	和田浩一	○	○	○	○	
		12	2	齊藤直	○	○	○	○	
		12	2	矢野久美子	○	○	○	○	
		12	2	田丸理砂	○	○	○	○	
		12	2	佐藤輝			○	○	
		12	2	B.Middleton	○	○	○	○	
		12	2	大西比呂志	○	○	○	○	
		12	2	金香男	○	○	○	○	
		12	2	原口尚彰	○	○	○	○	
		12	2	高雄綾子	○	○	○	○	
		12	2	泉谷陽子	○	○	○	○	
		12	2	新城道彦	○	○	○	○	
		12	2	杉之原真子	○	○	○	○	

【備考欄】：☆＝2020年度以降担当者未定

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

(1) 在学期間

大学院に5年以上*在学すること。

*修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。

(2) 修得単位数等

① 「博士論文指導」を含む所定の授業科目を38単位**以上修得すること。

② 博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。

**修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、当該課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします（p.21参照）。

また、(2)については次のとおり定めます。

科目区分	必修単位数
指導教授の「特別研究」科目	2単位
指導教授又は指導教員が担当する「博士論文指導」	4単位
その他の授業科目	2単位
合 計	8単位

履修方法

所定の授業科目の履修方法

「特別研究」及び「博士論文指導」から履修することとします。

詳細は開講科目表の履修方法欄を参照してください。

各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

「博士論文指導」の履修

(1) 履修時期

履修登録は、原則として修了予定年度（3年次）の前期に行い、前期→後期の順に履修してください。

休学・留学により既定された履修年次・学期に履修することができない場合は、年度を超えて履修することが認められます。該当者は、教務責任者（p.102）の指示を受けてください。

後期・前期受入の特別聴講学生が年度を超えて履修する場合は、前期に履修登録してください。

(2) 履修上の注意

「博士論文指導」の重複履修はできません。

学生は、指導教授担当の「博士論文指導」を履修することとします。

指導教授・研究主題

指導教授は、博士の学位申請論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

学生は入学学期に指導教授及び研究主題を定めます。

(1) 研究主題・指導教授の届出

学生は、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届」（教務課備付）により、指導教授名及び研究主題を教務課に届け出なければなりません。

「研究主題・指導教授等届」提出期限	2019年4月15日（月）
-------------------	---------------

(2) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(3) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員（指導教員）を定めることがあります。

指導教授一覧

荒 井 真
上 原 良 子
大 西 比呂志
大 野 英二郎
寛 雅 博
木 曾 順 子
高 柳 彰 夫
田 丸 理 砂

中 塚 次 郎
原 口 尚 彰
春 木 良 且
ヒガ, マルセーロ
矢 野 久美子

研究計画・研究報告

学生は、毎年度、年度初めの所定の期日までに「研究計画書」（教務課備付）を提出しなければなりません。
また、年度末の所定の期日までに「研究報告書」を提出しなければなりません。

(1) 「研究計画書」の提出

期限	2019年4月17日（水）
場所	教務課

(2) 「研究報告書」の提出

期限	2020年1月16日（木）
提出先	各自の指導教授
書式	研究科が指定。なお、学術雑誌などに発表した論文の抜刷を、研究報告書に代えることができます。

博士の学位申請論文

提出資格

p.24を参照してください。

提出の手続

p.24を参照してください。

「博士の学位申請論文」の提出

(1) 「学位申請論文提出資格確認願」の提出

p.25を参照してください。

【学位申請論文提出資格確認願における研究科が定める様式書類】

書類	博士学位申請論文草稿
内容	(1) 博士学位申請論文草稿 (2) 論文要旨
分量	博士の学位申請論文（本論文）に準ずる

- (2) 「博士の学位申請論文」(本論文)の提出
p.25を参照してください。

【博士の学位申請論文の文量】

和文	12万字以上
英文	6万語以上
その他の言語	上記に準ずる分量

*作成様式等詳細については、別に定めます。

学位論文審査基準（博士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切で、さらに独創性があること。
- (2) 先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に、かつ自主的に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示され、その結論が独創的であること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野において、研究を進展させる学問的価値があること、豊かな学識を有し、自立して研究活動を行うことができ、専門的な業務に従事するに必要な能力を示すものであること。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。なお、副査のうち、1名は学外者とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、国際交流研究科委員会において審議し、博士の学位を授与することの可否を議決する。

最終試験

p.25を参照してください。

音楽研究科

修士課程

音楽研究科の人材養成目的

音楽の領域に関する理論及び実践を教授研究し、高度に専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた職業人を養成する。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

修士課程

◆ディプロマ・ポリシー

音楽の領域において、卓越した演奏家・音楽文化人としての高度な専門性を身に付け、社会のニーズにあった音楽活動をするのみならず、社会にインパクトを与え、社会人・職業人として芸術に理解ある社会の創造に貢献できる能力をもつ者に「修士（音楽）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

音楽芸術・音楽文化の領域において、高度に専門的な知識・理論・表現技術が身に付くように、少人数の専門研究科目及び演奏能力・技術をより向上させる個人レッスンやアンサンブル科目を中心としつつ、社会との接点を持つ実践的な科目及び専攻分野を横断する学際的な科目を置くことにより、現代社会で活動するために必要となる高度な実践的能力を養う。

カリキュラムの説明

音楽研究科 音楽芸術専攻

音楽芸術専攻では西洋音楽を中心とした理論と実践を通し、高度な知識を背景とした研究能力を身につけ、音楽を専門とする今日的な職業に携わる人材を養成する事を目的としている。

1998年に音楽研究科創作表現専攻として開設され、音楽学部楽理学科の2つの柱である作曲と音楽学を受け継ぎながら、より高度な創作表現を中心課題とし、音楽理論研究（和声、対位法、作品分析、管弦楽法）、音楽学研究を基盤に日本歌曲、合唱曲、オルガン曲、室内楽曲、新しいキリスト教作品等の創作を試みると共に、作品を生み出す背景研究を行なっている。2004年には名称を創作表現専攻から音楽芸術専攻とし、学部と大学院のプログラムを直結することにより、両方のカリキュラムのさらなる連携をはかっている。

音楽芸術専攻では作曲、音楽文化、応用音楽学、音楽コミュニケーション、音楽情報論、音楽人間環境科学、音楽教育、先端メディアなどの科目を設置している。具体的には、専任教員それぞれの専門性においてクラシックからポピュラー音楽までの幅広い作曲技法とオーケストレーションの基礎の修得、コンピュータを用いた音楽・映像・メディアアート作品などの制作、現代社会の音環境が抱える問題を解き明かし、より良いものにするための音響学や音環境デザインの研究、ポピュラー音楽の理論や歴史の研究、音楽学の基本概念の修得や学術的思考、それにふさわしい発想や文章の構築、ピアノ伴奏や室内楽の共演の楽曲レパートリー研究と演奏技術及び表現力の向上をめざす共演芸術研究、舞台作品を題材に発声法・ピアノ伴奏・指揮法などの修得を通しての舞台制作研究など、多様な音楽に関する講義・演習が体系的に構成している。これらによって学生は広範な知識と好奇心、論理的思考を学び、音楽研究の諸領域を追求し、さらに専任教員の指導のもと修士研究を行い、研究成果の発信を通して社会に貢献することが期待される。

演奏専攻では演奏家をめざし、学士を取得している者により高度な専門技術研鑽の課程を設け、演奏技術と表現の向上によって国際的にも通用する人材を育成することを目的としている。各専攻分野において、国内のみならず、国際社会を見据えた教育を提供できるよう、技術、表現の研鑽が狭義に陥らないようカリキュラムが配置されている。特に専攻個人レッスンにおいては学生が研究課題に応じて自由に担当教員を選択指名することができ、また必要に応じて複数教員よりレッスンを履修することが可能となっている。また音楽研究科がこれを認めた場合他専攻の個人レッスンも履修できるよう配慮されている。画一的師弟制度の短所を打破した画期的なシステムとなっている。

修了要件として、修了演奏及び演奏に則した修士副論文を課している。演奏される曲目につき作品の成立背景にあるさまざまな題材をどのように解釈したかをテーマとした副論文を記すことで技術のみに秀でた演奏家だけでなく、技術、理論双方を修得したより高度な演奏のできる人材を育成することが可能である。

海外より招聘した客員教授による専攻実技レッスン及びアンサンブル指導、著名演奏家による特別公開講座は演奏の国際性を育み、さらに留学を希望する学生にはプレーメン芸術大学等への派遣の機会も用意されている。本学が保持するパリ芸術都市での短期、長期の研鑽の機会が国際的演奏家の育成のための、重要な実践の場となっている。

音楽研究科 修士課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の (1)、(2) 全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間
2年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
 - ① 「修士研究指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
 - ② 音楽芸術専攻においては修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）の提出、演奏専攻においては修士副論文の提出及び修士演奏*に出演し、その審査及び最終試験に合格すること。

*修士演奏は修士学位審査演奏会の略称。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.21参照）。

必修単位数については次のとおり定めます。

音楽芸術専攻

科目区分	単位数	備 考
選択必修Ⅰ群	4単位以上	
選択必修Ⅱ群	4単位以上	
選択必修Ⅲ群 「修士研究指導」	4単位	
その他	18単位	① 必修、選択必修として規定された以上に選択した科目、研究委員会の承認を経て修了要件への算入が認められた他大学院等で修得した単位を含みます。 ② 「実技レッスンA,B」「特別実技レッスンA,B」の修了要件への算入は、あわせて6単位が上限です。
合 計	30単位	

演奏専攻

科目区分	単位数	備 考
選択必修Ⅰ群	4単位以上	
選択必修Ⅱ群	4単位以上	
選択必修Ⅲ群 「修士研究指導」	4単位	
その他	18単位	① 必修、選択必修として規定された以上に選択した科目、研究委員会の承認を経て修了要件への算入が認められた他大学院等で修得した単位を含みます。 ② 「実技レッスン A,B」「特別実技レッスン A,B」の修了要件への算入は、あわせて9単位が上限です。
合 計	30単位	

履修方法

各専攻所定の授業科目の履修方法

選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲから履修することとします。

詳細は開講科目表の「履修方法」欄を参照してください。

各学期の履修科目については、指導教授の承認を得て履修登録を行ってください。

他専攻、他研究科、学部授業科目の履修

p.16を参照してください。

同一授業科目の重複履修

(1) 同一担当者による同一授業科目（レッスン科目を除く）

年度を変えて重複履修することを希望する者は、指導教授の承認を得た後、所定用紙（教務課、山手事務室備付）により開講学期の履修登録期間最終日までに教務課に届け出るものとします。

(2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修することができます。

(3) 修了要件への算入

上記(1)、(2)の場合、修了要件としては認められません。

「修士研究指導」の履修

(1) 履修時期及び必修単位数

修了年次の前期と後期に、それぞれ2単位ずつ履修してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者（p.102）の指示を受けてください。

(2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位までです。

選択 PA 科目

選択 PA（Performing Arts）科目は、個人指導科目であり、演奏専攻カリキュラムの選択必修Ⅰ群、選択必修Ⅱ群、選択必修Ⅲ群における教育を補完するレッスン科目です。「特別実技レッスン A,B」では、本学教員及び海外アーティスト等学外の講師による短期集中レッスンなども設定されています。

なお、研究主題に関連することであれば、自身の専攻楽器とは異なる専門の教員の指導も受けることができます。ただし、その場合には、研究科の承認を得るものとします。

1年次後期以降の履修申込み方法については、掲示で周知します。

科目名	実技レッスン A, B	特別実技レッスン A, B
時間数	週45分×15回	週15分×15回
単 位	各3単位	各1単位
実技料	1学期1科目につき150,000円 （演奏専攻生の1年次前・後期、2年次前期の授業料には、1科目分の実技料が含まれる。）※1	1学期1科目につき50,000円
備 考	・要手続科目 ・他専攻への開放科目 ・重複履修可能 ・演奏専攻では9単位、音楽芸術専攻では6単位まで修了要件に算入可 ・24単位の上限を超えて PA 科目の履修を希望する場合、専攻主任の承認が必要	

※1 履修を希望しない場合は、期日までに所定の手続きを行ってください。基本授業料に含まれる選択PA科目実技料が返金されます。なお、手続きの詳細については履修申込み方法と合わせてお知らせします。

開講楽器等及び担当予定者

楽器等※2	担 当 予 定 者
声楽	蔵田雅之、土屋広次郎、星野聡、太田朋子、栗林朋子、坂本貴輝、辻裕久、西由起子、秦貴美子、牧野真由美、宮部小牧
ピアノ	落合敦、黒川浩、堀由紀子、立神粧子、新井啓泰、磯崎淳子、大瀧郁彦、川井綾子、北原葉子、児玉恵子、小林周子、下田幸二、田口純子、中野真帆子、畠山さち子、林今日子、前田美由紀、松浦健
オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	宇内千晴（Or）、早島万紀子（Or、Cembalo）、三浦はつみ（Or）、桐山建志（鍵盤楽器伴奏法）
管楽器	井出朋子（Fl）、細川順三（Fl）
弦楽器	戸田弥生（Vn）、千葉純子（Vn）、中村静香（Vn、Va）、渡部基一（Vn）、井上雅代（Vc）、藤村俊介（Vc）、渡部玄一（Vc）、桐山建志（Vn: 時代楽器奏法）
背景研究・論文作成	谷口昭弘、川本聡胤
作曲	大田桜子
DTM とメディア・アート	瀬藤康嗣

※2 年度により、休講となる楽器等がある場合があります。

指導教授・研究主題

各専攻の「修士研究指導」担当者が指導教授となります。

指導教授は、音楽芸術専攻においては修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）、演奏専攻においては修士演奏及び修士副論文に関する指導を行います。

(1) 手続

学生は、入学学期の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届」（教務課、山手事務室備付）によって、①指導教授及び②研究主題を教務課に届け出なければなりません。

「研究主題・指導教授等届」提出期限	2019年4月15日（月）
-------------------	---------------

(2) 「修士研究指導」の履修

学生は、指導教授担当の「修士研究指導」を履修することとします。

(3) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課、山手事務室備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(4) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

指導教授一覧

音楽芸術 専攻	大 田 桜 子
	立 神 粧 子
	谷 口 昭 弘
	星 野 聡

演奏専攻	落 合 敦
	蔵 田 雅 之
	黒 川 浩
	戸 田 弥 生
	堀 由紀子

修士研究・修士副論文

提出資格

p.22を参照してください。

「修士研究・修士副論文題目届」の提出

p.22を参照してください。

「修士研究・修士副論文」の提出

(1) 修士研究・修士副論文の提出

p.22を参照してください。

論文等の作成要領については、各専攻が別に定めます。

(2) 審査用論文等の提出

山手事務室提出用とは別に、審査用として次のとおり提出してください。なお、山手事務室提出用と審査用論文等は同じものとし、手を加えてはなりません。

【審査用の論文等の提出】

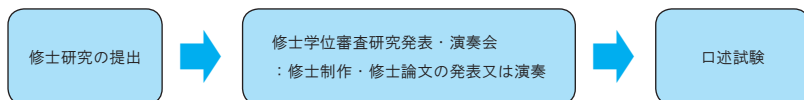
提出物	電子データ
日時	2019年12月4日（水）～12月6日（金）11:00～16:30 提出時間厳守
提出先・提出方法等	各専攻の指示に従ってください。

修士学位審査研究発表・演奏会、最終試験

(1) 最終試験までの流れ

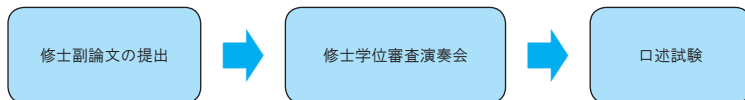
音楽芸術専攻

修士研究を提出した者は、当該年度の所定期間に、最終試験を受けるものとします。最終試験は、研究発表及び口述試験によって行います。



演奏専攻

修士副論文を提出した者は、当該年度の所定期間に、最終試験を受けるものとします。最終試験は、修士演奏及び口述試験によって行います。



【日程】

修士学位審査研究発表・演奏会	2020年2月5日（水）～2月7日（金）
口述試験	2020年2月上旬～中旬（詳細は専攻の指示による）

【9月修了者の日程】

2019年9月修了を希望する者の「修士学位審査研究発表・演奏会」は、前期実技試験期間中に実施します。

修士学位審査研究発表・演奏会	2019年7月30日（火）・7月31日（水）・8月1日（木）
口述試験	2019年7月下旬～8月初旬（詳細は専攻の指示による）

(2) 欠席・遅刻の扱い

修士学位審査研究発表・演奏会当日に欠席又は遅刻した場合の扱いは、学部の追試験の規定に準じます。発表演奏日は別に設けます。

学位論文審査基準（修士論文）

音楽芸術専攻では修士研究として修士制作及び修士副論文、又は修士論文のいずれかを選択し提出した上で修士学位研究発表を行います。演奏専攻の場合は修士副論文の提出及び修士学位審査演奏会に出演します。いずれの専攻の場合も、学位申請者が提出した修士論文、または修士副論文を、主査1名、副査2名が審査を行います。その審査基準は以下のとおりです。

1. 修士論文（音楽芸術専攻）

- (1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
- (2) 当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
- (3) データ、資料、作品、例文や、それらの処理・分析・解釈の仕方など、研究の目的を達成するためにとられた方法が、適切かつ主体的に行われていること。先行研究を踏まえた発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
- (4) 全体の構成を含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
- (5) 論理に飛躍がなく着実に結論に結びつくよう展開されていること。
- (6) 文章が学術論文にふさわしい確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。
- (7) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見が見いだせること。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められること。
- (8) 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規定や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。

2. 修士副論文（音楽芸術専攻、演奏専攻）

修士副論文は修士制作（音楽芸術専攻）、修士演奏（演奏専攻）と関連した分野、あるいは独立した別の主題を選択することが出来る。

- (1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
- (2) 当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
- (3) データ、資料、作品、例文や、それらの処理・分析・解釈の仕方など、研究の目的を達成するためにとられた方法が、適切かつ主体的に行われていること。先行研究を踏まえた発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
- (4) 全体の構成を含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
- (5) 論理に飛躍がなく着実に結論に結びつくよう展開されていること。
- (6) 適切な文章表現による論述が行われており全体的によくまとまっていること。
- (7) 上記の基準を満たした上で、修士制作または修士演奏の質を向上・発展させる知見が見いだせること。また、当該分野において申請者が近い将来、自立した表現者として活躍していく能力および可能性が認められること。
- (8) 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規定や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。

修士制作及び修士演奏審査基準

音楽芸術専攻の修士制作、演奏専攻の修士学位審査演奏会に関する審査基準は、それぞれ以下のとおりです。

1. 修士制作（音楽芸術専攻）

作品、演奏、企画制作等による表現形態をとり、以下のすべて、又はいずれかを含むこととする。

- (1) 独創性及び独自性を追求し、作品、演奏、または企画制作として具現化している。
- (2) 高度な技法を用い、高い芸術性を有する。
- (3) 社会的意義を有する。

2. 修士演奏（演奏専攻）

近い将来、楽壇で活躍するに足る演奏能力を有しているかを評価基準と定め、以下の項目を設定している。

（修士演奏は修士副論文の内容に沿ったプログラム作成が望ましい。）

- (1) 高度な演奏技術を保持し、長時間の演奏中、集中力、耐久力とともに、それをコントロールできるか。
- (2) 演奏作品の時代、様式を明確に把握し、かつオリジナリティーのある豊かな演奏表現能力を持っているか。
- (3) 芸術表現上、整合性のあるプログラミングがなされているか。
- (4) 上記 (1) ～ (3) のうえに立って聴衆を魅了できる演奏ができているか。

大学院開講科目表

この情報は、2019年3月3日現在の情報をもとに作成しています。
最新情報は、Web シラバスで確認してください。

英語英米文学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	備考	履修方法
				前	後					
選択必修	91010	イギリス文学研究 1 A	小説批評の基礎	2		高橋 和久	12	月 3		I 群から4単位以上を修得
	91020	イギリス文学研究 1 B		2		(休 講)	12			
	91030	イギリス文学研究 2 A		2		(休 講)	12			
	91040	イギリス文学研究 2 B		2		(休 講)	12			
	91050	イギリス文学研究 3 A	イギリス・ルネサンス演劇演習 A	2		由井 哲哉	12	月 5	①	
	91060	イギリス文学研究 3 B	ルネサンス演劇研究	2		由井 哲哉	12	月 5		
	99010	イギリス文学研究 4 A	20世紀イギリス小説を読む	2		丹治 愛	12	木 4		
	99020	イギリス文学研究 4 B	イギリス小説を読む	2		丹治 愛	12	木 4		
	91070	イギリス文化研究 1 A	イギリス芸術文化とキリスト教 A	2		近藤 存志	12	金 4	①	
	91080	イギリス文化研究 1 B	イギリス芸術文化とキリスト教 B	2		近藤 存志	12	金 4		
	91090	イギリス文化研究 2 A		2		(休 講)	12			
	91100	イギリス文化研究 2 B		2		(休 講)	12			
	91110	イギリス文化研究 3 A		2		(休 講)	12			
	91120	イギリス文化研究 3 B		2		(休 講)	12			
	99030	イギリス歴史・社会研究 A		2		(休 講)	12			
	99040	イギリス歴史・社会研究 B		2		(休 講)	12			
	91150	アメリカ文学研究 1 A		2		(休 講)	12			
	91160	アメリカ文学研究 1 B		2		(休 講)	12			
	91170	アメリカ文学研究 2 A		2		(休 講)	12			
	91180	アメリカ文学研究 2 B		2		(休 講)	12			
	91190	アメリカ文化研究 1 A	アメリカ映画文化研究 (1)	2		福永 保代	12	金 4	①	
	91200	アメリカ文化研究 1 B	アメリカ映画の文化研究 2	2		福永 保代	12	金 4		
	91210	アメリカ文化研究 2 A		2		(休 講)	12			
	91220	アメリカ文化研究 2 B		2		(休 講)	12			
	99050	北アメリカ歴史・社会研究 1 A		2		(休 講)	12			
	99060	北アメリカ歴史・社会研究 1 B		2		(休 講)	12			
	99070	北アメリカ歴史・社会研究 2 A	多文化・多民族・多文化のアメリカ A	2		中川 正紀	12	木 2	月 5	
	99080	北アメリカ歴史・社会研究 2 B	多文化・多民族・多文化のアメリカ B	2		中川 正紀	12	木 2		
	91290	英語学研究 1 A	第二言語習得研究 1 効果的な英語学習・教育への示唆	2		大畑 甲太	12	火 5	① ③	
	91300	英語学研究 1 B	第二言語習得研究 2 効果的な英語学習・教育への示唆	2		大畑 甲太	12	火 1	火 2	
選択必修	91310	英語学研究 2 A		2		(休 講)	12			II 群から8単位以上を修得
	91320	英語学研究 2 B		2		(休 講)	12		③	
	91330	英語学研究 3 A		2		(休 講)	12			
	91340	英語学研究 3 B		2		(休 講)	12			
	91370	イギリス文学演習 1 A	16世紀イギリス研究：一次資料を使う	2		富樫 剛	12	水 2		
	91380	イギリス文学演習 1 B	17世紀イギリス研究：一次資料を使う	2		富樫 剛	12	金 5	①	
	91390	イギリス文学演習 2 A	Charles Dickens, <i>The Old Curiosity Shop</i> を読む	2		向井 秀忠	12	金 2		
	91400	イギリス文学演習 2 B	W. M. Thackeray, <i>Vanity Fair</i> を読む	2		向井 秀忠	12	金 2		
	99090	イギリス文学演習 3 A		2		(休 講)	12			
	99100	イギリス文学演習 3 B		2		(休 講)	12			
	99110	イギリス文学演習 4 A		2		(休 講)	12			
	99120	イギリス文学演習 4 B		2		(休 講)	12			
	91410	イギリス文化演習 1 A		2		(休 講)	12			
	91420	イギリス文化演習 1 B		2		(休 講)	12			
	91430	イギリス文化演習 2 A	英国児童文学・ファンタジー・小説研究	2		安藤 聡	12	水 5		
	91440	イギリス文化演習 2 B	英国児童文学・小説・ファンタジー研究	2		安藤 聡	12	水 3		
	99130	イギリス文化演習 3 A		2		(休 講)	12			
	99140	イギリス文化演習 3 B		2		(休 講)	12			
	99150	イギリス歴史・社会演習 A		2		(休 講)	12			
	99160	イギリス歴史・社会演習 B		2		(休 講)	12			
	99170	アメリカ文学演習 1 A		2		(休 講)	12			
	99180	アメリカ文学演習 1 B		2		(休 講)	12			
	99190	アメリカ文学演習 2 A	Henry James の <i>The Turn of the Screw</i> を読む	2		丹治 陽子	12	火 3		
	99200	アメリカ文学演習 2 B	Henry James と Lafcadio Hearn を読む	2		丹治 陽子	12	火 4		
	99210	アメリカ文化演習 1 A		2		(休 講)	12			
	99220	アメリカ文化演習 1 B		2		(休 講)	12			
	99230	アメリカ文化演習 2 A		2		(休 講)	12			
	99240	アメリカ文化演習 2 B		2		(休 講)	12			
	99250	北アメリカ歴史・社会演習 1 A	アメリカ文化史・知識人史演習 A	2		梅崎 透	12	水 1	① ②	
	99260	北アメリカ歴史・社会演習 1 B	アメリカ文化史・知識人史演習 B	2		梅崎 透	12	水 1	① ③	
	99270	北アメリカ歴史・社会演習 2 A		2		(休 講)	12		②	
	99280	北アメリカ歴史・社会演習 2 B		2		(休 講)	12			
	91550	英語学演習 1 A		2		(休 講)	12		③	
	91560	英語学演習 1 B		2		(休 講)	12			
	91570	英語学演習 2 A	支援談話と言語分析 1	2		鏡平名 尚子	12	水 1	① ③	
	91580	英語学演習 2 B	支援談話と言語分析 2	2		鏡平名 尚子	12	水 1		
	99290	英語学演習 3 A	第一言語習得研究 1 効果的な英語学習・教育への示唆	2		山根 麻紀	12	月 2		
	99300	英語学演習 3 B	第一言語習得研究 2 効果的な英語学習・教育への示唆	2		山根 麻紀	12	月 2		

【備考欄】 ①＝16世紀開講 ②＝17世紀開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻、国際交流専攻）
 ③＝18世紀開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻）
 ④＝ジェンダー関連科目 ⑤＝19世紀開講科目（国際交流専攻、人文科学研究科 3 専攻）

99350 アメリカ文学演習 1B(2) Toni Morrison を読む 2 小泉 泉 12 火 4

大学院開講科目表
人文科学研究科
博士前期課程

種別	履修登録 コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修 年次	曜日 時限	備考	履修方法
				前	後					
選択必修Ⅱ	99310	英語論文演習1 A	Principles of Research Writing 1	2	2	ケン イケダ	12	金 3		Ⅱ群から8単位 以上を修得
	99320	英語論文演習1 B	Principles of Research Writing 2	2	2	ケン イケダ	12	金 3		
	99330	英語論文演習2 A		2	2	(休 講)	12			
	99340	英語論文演習2 B		2	2	(休 講)	12			
選択	89840	アジアの文化とジェンダー		2	2	(休 講)	12		④ ⑤	
	89850	ヨーロッパ現代思想	アガンベンを読む	2	2	矢野 久美子	12	水 1	⑤	
	89890	キリスト教の現代的課題		2	2	(休 講)	12			
選択必修Ⅲ	91730			2	2	近藤 存志	2	金 6		4単位を修得
	91740			2	2	近藤 存志	2	金 6		
	91731			2	2	(休 講)	2			
	91741			2	2	(休 講)	2			
	91732			2	2	向井 秀忠	2	金 6		
	91742			2	2	向井 秀忠	2	金 6		
	91733			2	2	由井 哲哉	2	金 6		
	91743			2	2	由井 哲哉	2	金 6		
	91734			2	2	梅崎 透	2	金 6		
	91744			2	2	梅崎 透	2	金 6		
	91750	修士論文指導		2	2	堀永 保代	2	金 6		
	91751			2	2	堀永 保代	2	金 6		
	91735			2	2	(休 講)	2			
	91745			2	2	(休 講)	2			
	91736			2	2	中川 正紀	2	金 6		
	91746			2	2	中川 正紀	2	金 6		
	91737			2	2	富樫 剛	2	金 6		
	91747			2	2	富樫 剛	2	金 6		
	91738			2	2	大畑 甲太	2	金 6		
	91748			2	2	大畑 甲太	2	金 6		
91739			2	2	鏡平名 尚子	2	金 6			
91749			2	2	韓平名 尚子	2	金 6			

2019大学院要覽

日本語日本文学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位 前後	担当者	履修 年次	曜日 時限	備考	履修方法
選択必修Ⅰ	93010	日本文学研究A		2	(休 講)	12			Ⅰ群から4単位以上を修得
	93020	日本文学研究B		2	(休 講)	12			
	93030	上代文学研究A	『古事記』の「言向け」の思想を読み解く	2	松田 浩	12	火 2		
	93040	上代文学研究B	『古事記』中巻・下巻を読み解く	2	松田 浩	12	火 2	①	
	93050	中古文学研究A	源氏物語研究A	2	竹内 正彦	12	金 2		
	93060	中古文学研究B	源氏物語研究B	2	竹内 正彦	12	金 2		
	93070	古代文化研究A		2	(休 講)	12			
	93080	古代文化研究B		2	(休 講)	12			
	93090	中世文学研究A		2	(休 講)	12			
	93100	中世文学研究B		2	(休 講)	12			
	93110	近世文学研究A		2	(休 講)	12			
	93120	近世文学研究B		2	(休 講)	12			
	93750	近世文化研究A	歌舞伎作品と近世文化(1)	2	吉田 弥生	12	月 2	①	
	93760	近世文化研究B	歌舞伎作品と近世文化(2)	2	吉田 弥生	12	月 2		
	93130	中近世文化研究A		2	(休 講)	12			
	93140	中近世文化研究B		2	(休 講)	12			
	93150	近代文学研究1A	日本近現代文学研究のパラダイムA	2	島村 輝	12	金 3	①	
	93160	近代文学研究1B	近現代文学研究のパラダイムB	2	島村 輝	12	金 5		
	93170	近代文学研究2A		2	(休 講)	12			
	93180	近代文学研究2B		2	(休 講)	12			
	93190	近現代文学研究A		2	(休 講)	12			
	93200	近現代文学研究B		2	(休 講)	12			
	93210	近代文化研究A		2	(休 講)	12			
	93220	近代文化研究B		2	(休 講)	12			
	93230	歴史日本語学研究A		2	(休 講)	12		②	
	93240	歴史日本語学研究B		2	(休 講)	12			
	93250	現代日本語学研究A		2	(休 講)	12			
	93260	現代日本語学研究B		2	(休 講)	12			
	93770	日本語教育学研究A	日本語教育学演習A	2	田中 里奈	12	月 1		
	93780	日本語教育学研究B	日本語教育学演習B	2	田中 里奈	12	月 1		
	93270	言語教育学研究A		2	(休 講)	12			
	93280	言語教育学研究B		2	(休 講)	12			
	93290	日本語日本文学文化研究A		2	(休 講)	12			
	93300	日本語日本文学文化研究B		2	(休 講)	12			
	93310	漢文学研究A		2	(休 講)	12			
	93320	漢文学研究B		2	(休 講)	12			
	93330	日中比較文化研究A		2	(休 講)	12			
	93340	日中比較文化研究B		2	(休 講)	12			
	93350	文献研究A	書誌学的手法と文学研究	2	海野 圭介	12	月 1		
	93360	文献研究B	絵画資料と文学研究	2	海野 圭介	12	月 1		
選択必修Ⅱ	93370	上代文学演習A	拾遺和歌集にみる和歌文化1	2	猪股 ときわ	12	水 4		Ⅱ群から8単位以上を修得
	93380	上代文学演習B	拾遺和歌集にみる和歌文化2	2	猪股 ときわ	12	水 4		
	93390	中古文学演習A		2	(休 講)	12			
	93400	中古文学演習B		2	(休 講)	12			
	93410	中世文学演習A	たまきはるを読むA	2	谷 知子	12	火 2	①	
	93420	中世文学演習B	たまきはるを読むA	2	谷 知子	12	火 2		
	93430	近世文学演習A		2	(休 講)	12			
	93440	近世文学演習B		2	(休 講)	12			
	93790	近世文化演習A	歌舞伎作品と近世文化(1)	2	神田 由美	12	金 2		
	93800	近世文化演習B	歌舞伎作品と近世文化B	2	神田 由美	12	金 2		
	93450	近代文学演習1A	日本近現代文学研究の方法を学ぶA	2	佐藤 裕子	12	月 2		
	93460	近代文学演習1B	近現代文学研究の方法を学ぶB	2	佐藤 裕子	12	月 2	①	
	93470	近代文学演習2A		2	(休 講)	12			
	93480	近代文学演習2B		2	(休 講)	12			
	93490	近現代文学演習A	近現代文学とジェンダー／セクシュアリティ研究A	2	黒岩 裕市	12	水 5		
	93500	近現代文学演習B	近現代文学とジェンダー／セクシュアリティ研究B	2	黒岩 裕市	12	水 5		
	93510	日本語学演習A	日本語学研究的資料と方法A	2	勝田 新起	12	水 1	① ②	
	93520	日本語学演習B	日本語学研究的資料と方法B	2	勝田 新起	12	水 1		
	93530	現代日本語学演習A		2	(休 講)	12			
	93540	現代日本語学演習B		2	(休 講)	12			
	93810	日本語教育学演習A		2	(休 講)	12			
	93820	日本語教育学演習B		2	(休 講)	12			
	93550	漢文学演習A		2	(休 講)	12			
	93560	漢文学演習B		2	(休 講)	12			

- 【備考欄】 ①＝MO模式開講
 ②＝複式開講科目（日本語日本文学専攻、コミュニケーション学専攻）
 ③＝ジェンダー関連科目
 ④＝複式開講科目（国際交流研究科、人文科学研究科3専攻）

日本語日本文学専攻（博士前期課程）

履修登録 種別 コード	科目名	講義題目	単位	担当者	履修 年次	曜日 時限	備考	履修方法
			前 後					
選択	89840 アジアの文化とジェンダー		2	(休 講)	12		③ ④	
	89850 ヨーロッパ現代思想	アガンベンを読む	2	矢野 久美子	12	水 1	④	
	89860 キリスト教の現代的課題		2	(休 講)	12			
選択 必修 Ⅲ	93730		2	勝田 耕起	2	金 6	4単位を修得	
	93740		2	勝田 耕起	2	金 6		
	93731		2	佐藤 裕子	2	金 6		
	93741		2	佐藤 裕子	2	金 6		
	93732		2	島村 輝	2	金 6		
	93742		2	島村 輝	2	金 6		
	93733		2	竹内 正彦	2	金 6		
	93743	修士論文指導	2	竹内 正彦	2	金 6		
	93734		2	谷 知子	2	金 6		
	93744		2	谷 知子	2	金 6		
	93735		2	吉田 弥生	2	金 6		
	93745		2	吉田 弥生	2	金 6		
	93736		2	松田 浩	2	金 6		
	93746		2	松田 浩	2	金 6		
	93737		2	田中 里奈	2	金 6		
	93747		2	田中 里奈	2	金 6		

【備考欄】 ①＝MD模式開講
 ②＝複式開講科目（日本語日本文学専攻、コミュニケーション学専攻）
 ③＝ジェンダー関連科目
 ④＝複式開講科目（国際交流研究科、人文科学研究科3専攻）

コミュニケーション学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位 前 後	担当者	履修 年次	曜日 時間	備考	履修方法
Ⅰ 選択必修Ⅰ	コア科目	95010 心理コミュニケーション研究1A	発達心理学・社会心理学関係の学術論文を読む1A	2	山崎 浩一	12	木 3		
		95020 心理コミュニケーション研究1B	発達心理学・社会心理学関係の学術論文を読む1B	2	山崎 浩一	12	木 2		
		95030 心理コミュニケーション研究2A		2	(休 講)	12			
		95040 心理コミュニケーション研究2B		2	(休 講)	12			
		95050 社会コミュニケーション研究1A		2	(休 講)	12			
		95060 社会コミュニケーション研究1B		2	(休 講)	12			
		95070 社会コミュニケーション研究2A	言語哲学関連の原書文献講読A	2	高田 明典	12	月 3	①	
		95080 社会コミュニケーション研究2B	言語哲学関連の原書文献講読B	2	高田 明典	12	月 3		
		95090 社会コミュニケーション研究3A		2	(休 講)	12			
		95100 社会コミュニケーション研究3B		2	(休 講)	12			
		95110 言語コミュニケーション研究1A		2	(休 講)	12			
		95120 言語コミュニケーション研究1B		2	(休 講)	12			
		95130 言語コミュニケーション研究2A	言語によるコミュニケーションの諸相	2	高村 めぐみ	12	集中		
		95140 言語コミュニケーション研究2B		2	(休 講)	12			
		95150 文化コミュニケーション研究1A		2	(休 講)	12			
		95160 文化コミュニケーション研究1B		2	(休 講)	12			
		95170 文化コミュニケーション研究2A	文化戦争とマルチカルチャリズムの行方	2	藤巻 光浩	12	水 2	①	
		95180 文化コミュニケーション研究2B	文化戦争とリベラリズムの行方	2	藤巻 光浩	12	水 2		
		95190 文化コミュニケーション研究3A	異文化コミュニケーション専門研究	2	相澤 一	12	火 4		
		95200 文化コミュニケーション研究3B	異文化コミュニケーション専門研究	2	相澤 一	12	火 4		
		95210 文化コミュニケーション研究4A	カルチュラルスタディーズ、ポストコロニアリズム入門	2	諸橋 泰樹	12	水 2	①	
		95220 文化コミュニケーション研究4B	カルチュラルスタディーズ、ポストコロニアリズム実践	2	諸橋 泰樹	12	水 2		
Ⅱ 選択必修Ⅱ	コア科目	99050 北アメリカ歴史・社会研究1A		2	(休 講)	12		②	
		99060 北アメリカ歴史・社会研究1B		2	(休 講)	12		③	
		99070 北アメリカ歴史・社会研究2A	多民族・多文化のアメリカA	2	中川 正紀	12	木 3	②	月5
		99080 北アメリカ歴史・社会研究2B	多民族・多文化のアメリカB	2	中川 正紀	12	木 2		
		91290 英語学演習1A	第二言語習得研究1 効果的な英語学習、教育への示唆	2	大畑 甲太	12	火 5	火2	
		91300 英語学演習1B	第二言語習得研究2 効果的な英語学習、教育への示唆	2	大畑 甲太	12	火 1	③	
		91310 英語学演習2A		2	(休 講)	12			
		91320 英語学演習2B		2	(休 講)	12			
		93230 歴史日本語学研究A		2	(休 講)	12			
		93240 歴史日本語学研究B		2	(休 講)	12		④	
	実習科目	95230 リサーチメソッド1	定量調査実施プロセスの理論と実践	2	小川 祐喜子	12	金 4		
		95240 リサーチメソッド2	調査データ解析の理論と実践	2	小川 祐喜子	12	金 4		
		95250 リサーチメソッド3	エスノメソッドロジー、会話分析による調査・分析講座	2	森 一平	12	金 3		
		95260 心理コミュニケーション演習1A		2	(休 講)	12			
	コア科目	95270 心理コミュニケーション演習1B		2	(休 講)	12			
		95280 心理コミュニケーション演習2A	心理コミュニケーションの演習（基礎的認知）	2	瀬村 公弘	12	金 5		
		95290 心理コミュニケーション演習2B	心理コミュニケーションの演習（応用的認知）	2	瀬村 公弘	12	金 5		
		95300 社会コミュニケーション演習1A	子育て問題とジェンダー	2	井上 恵美子	12	火 2	①	
		95310 社会コミュニケーション演習1B	学校におけるジェンダー／セクシュアリティ問題	2	井上 恵美子	12	火 1		
		95320 社会コミュニケーション演習2A		2	(休 講)	12			
		95330 社会コミュニケーション演習2B		2	(休 講)	12			
		95340 社会コミュニケーション演習3A	国際社会学・国際移動論の最新動向研究	2	小ヶ谷 千穂	12	木 4		
		95350 社会コミュニケーション演習3B	国際社会学・国際移動論の最新動向研究	2	小ヶ谷 千穂	12	木 4	①	
		95360 言語コミュニケーション演習1A	言語コミュニケーション研究の諸相Ⅰ	2	齋藤 孝哉	12	水 2		
		95370 言語コミュニケーション演習1B	言語コミュニケーション研究	2	齋藤 孝哉	12	水 2		
		95380 言語コミュニケーション演習2A		2	(休 講)	12			
		95390 言語コミュニケーション演習2B		2	(休 講)	12			
		95400 文化コミュニケーション演習1A		2	(休 講)	12			
		95410 文化コミュニケーション演習1B		2	(休 講)	12			
		95420 文化コミュニケーション演習2A		2	(休 講)	12			
		95430 文化コミュニケーション演習2B		2	(休 講)	12			
	隣接分野科目	95440 文化コミュニケーション演習3A		2	(休 講)	12			
		95450 文化コミュニケーション演習3B		2	(休 講)	12			
		95460 文化コミュニケーション演習4A		2	(休 講)	12			
		95470 文化コミュニケーション演習4B		2	(休 講)	12			
		99250 北アメリカ歴史・社会演習1A	アメリカ文化史・知識人史演習A	2	梅崎 透	12	水 1		
		99260 北アメリカ歴史・社会演習1B	アメリカ文化史・知識人史演習B	2	梅崎 透	12	水 1		
		99270 北アメリカ歴史・社会演習2A		2	(休 講)	12			
		99280 北アメリカ歴史・社会演習2B		2	(休 講)	12		③	
		91550 英語学演習1A		2	(休 講)	12			
		91560 英語学演習1B		2	(休 講)	12			
	隣接分野科目	91570 英語学演習2A	支援談話と言語分析1	2	鏡平名 尚子	12	水 1		
		91580 英語学演習2B	支援談話と言語分析2	2	鏡平名 尚子	12	水 1		
		93510 日本語学演習A	日本語学研究的資料と方法A	2	勝田 耕起	12	水 1		
		93520 日本語学演習B	日本語学研究的資料と方法B	2	勝田 耕起	12	水 1	④	

【備考欄】 ①＝M0複式開講 ②＝複式開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻、国際交流専攻）
 ③＝複式開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻） ④＝複式開講科目（日本語日本文学専攻、コミュニケーション学専攻）
 ⑤＝ジェンダー関連科目 ⑥＝複式開講科目（国際交流研究科、人文科学研究科3専攻）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	備考	履修方法
				前	後					
選択	89840	アジアの文化とジェンダー		2		(休 講)	12		⑤ ⑥	
	89850	ヨーロッパ現代思想	アガンベンを読む	2		矢野 久美子	12	水 1	⑥	
	89860	キリスト教の現代的課題		2		(休 講)	12			
選択必修Ⅲ	95530	修士論文指導		2		(休 講)	2		4単位を修得	
	95531			2		(休 講)	2			
	95532			2		瀬村 公弘	2	金 6		
	95533			2		瀬村 公弘	2	金 6		
	95534			2		井上 恵美子	2	金 6		
	95535			2		井上 恵美子	2	金 6		
	95536			2		高田 明典	2	金 6		
	95537			2		高田 明典	2	金 6		
	95538			2		岡藤 孝滋	2	金 6		
	95539			2		岡藤 孝滋	2	金 6		
	95540			2		諸橋 泰樹	2	金 6		
	95541			2		諸橋 泰樹	2	金 6		
	95542			2		藤巻 光浩	2	金 6		
	95543			2		藤巻 光浩	2	金 6		
	95544			2		小ヶ谷 千穂	2	金 6		
	95545			2		小ヶ谷 千穂	2	金 6		

【備考欄】 ①＝MD複式開講 ②＝複式開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻、国際交流専攻）
 ③＝複式開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻） ④＝複式開講科目（日本語日本文学専攻、コミュニケーション学専攻）
 ⑤＝ジェンダー関連科目 ⑥＝複式開講科目（国際交流研究科、人文科学研究科3専攻）

英語英米文学専攻（博士後期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	備考	履修方法
				前	後					
選択必修Ⅰ	92010	イギリス文学特別研究 A	Charles Dickens, <i>The Old Curiosity Shop</i> を読む	2		向井 秀忠	123	金 2	①	4単位以上を修得
	92011		イギリス・ルネサンス演劇演習 A	2		由井 哲哉	123	月 5		
	92012		16世紀イギリス研究：一次資料を使う	2		富樫 剛	123	水 2		
	92020	イギリス文学特別研究 B	W. M. Thackeray, <i>Vanity Fair</i> を読む	2		向井 秀忠	123	金 2		
	92021		ルネサンス演劇研究	2		由井 哲哉	123	月 5		
	92022		17世紀イギリス研究：一次資料を使う	2		富樫 剛	123	金 5		
	92030	イギリス文化特別研究 A	イギリス芸術文化とキリスト教 A	2		近藤 存志	123	金 4		
	92031			2		(休 講)				
	92040		イギリス芸術文化とキリスト教 B	2		近藤 存志	123	金 4		
	92041	イギリス文化特別研究 B		2		(休 講)	123			
	92140		イギリス歴史・社会特別研究 A	2		(休 講)	123			
	92150		イギリス歴史・社会特別研究 B	2		(休 講)	123			
	92050	アメリカ文学特別研究 A		2		(休 講)	123			
	92060		アメリカ文学特別研究 B	2		(休 講)	123			
	92070		多入種・多民族・多文化のアメリカ A	2		中川 正紀	123	木 2		
	92180	アメリカ文化特別研究 A	アメリカ映画文化研究 1	2		福永 保代	123	金 4		
	92080		多入種・多民族・多文化のアメリカ B	2		中川 正紀	123	木 2		
	92190		アメリカ映画の文化研究 2	2		福永 保代	123	金 4		
	92160	アメリカ歴史・社会特別研究 A	アメリカ文化史・知識人史演習 A	2		梅崎 遼	123	水 1		
	92170		アメリカ文化史・知識人史演習 B	2		梅崎 遼	123	水 1		
	92110		英語学特別研究 A	2		大畑 甲太	123	火 1		
選択必修Ⅱ	92120	英語学特別研究 B	応用言語学研究 B	2		大畑 甲太	123	火 1	① 火 2	4単位を修得
	92111		支援談話と言語分析 1	2		鏡平名 尚子	123	水 1		
	92121		支援談話と言語分析 2	2		鏡平名 尚子	123	水 1		
	92130	博士論文指導		4		(休 講)	3			
	92131			4		(休 講)	3			
	92132			4		近藤 存志	3	金 6		
	92133			4		由井 哲哉	3	金 6		
	92134			4		向井 秀忠	3	金 6		
	92135			4		富樫 剛	3	金 6		
	92136			4		梅崎 遼	3	金 6		
	92137			4		大畑 甲太	3	金 6		

【備考欄】 (通年) = 通年科目 ①=M0様式開講

日本語日本文学専攻（博士後期課程）

種別	履修登録 コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修 年次	曜日 時間	備考	履修方法
				前	後					
選択必修Ⅰ	94010	古代文学特別研究A	源氏物語研究A	2		竹内 正彦	123	金 2	①	4単位以上を 修得
	94011		『古事記』の「言向け」の思想を読み解く	2		松田 浩	123	火 2		
	94020	古代文学特別研究B	源氏物語研究B	2		竹内 正彦	123	金 2	①	
	94021		『古事記』中巻・下巻を読み解く	2		松田 浩	123	火 2		
	94030	中近世文学特別研究A	たまきはるを読むA	2		谷 知子	123	火 2	①	
	94031			2		(休 講)	123			
	94040	中近世文学特別研究B	たまきはるを読むA	2		谷 知子	123	火 2	①	
	94041			2		(休 講)	123			
	94100	近世文化特別研究A	近世文化研究の理論と実践A	2		吉田 弥生	123	月 2	①	
	94110	近世文化特別研究B	近世文化研究の理論と実践B	2		吉田 弥生	123	月 2		
	94050	近代文学特別研究A	日本近現代文学研究の方法を学ぶA	2		佐藤 裕子	123	月 2	①	
	94051		近現代文学研究のさまざまなスキルを学ぶA	2		島村 輝	123	金 3		
	94052	近代文学特別研究B		2		(休 講)	123		①	
	94060		近現代文学研究の方法を学ぶB	2		佐藤 裕子	123	月 2		
	94061	近代文学特別研究B	近現代文学研究のパラダイムB	2		島村 輝	123	金 5	①	
	94062			2		(休 講)	123			
	94070	日本語学特別研究A	日本語史研究の諸問題(1)	2		勝田 耕起	123	水 1	①	
	94080	日本語学特別研究B	文献国語史的演習(1)	2		勝田 耕起	123	水 1		
94120	日本語教育学特別研究A		2		(休 講)	123		①		
94130	日本語教育学特別研究B		2		(休 講)	123				
選択必修Ⅱ	94091	博士論文指導		4		佐藤 裕子	3	金 6	(通年)	4単位を修得
	94092			4		島村 輝	3	金 6		
	94093			4		竹内 正彦	3	金 6		
	94090			4		谷 知子	3	金 6		
	94094			4		吉田 弥生	3	金 6		
	94095			4		松田 浩	3	金 6		
	94096			4		勝田 耕起	3	金 6		

【備考欄】 (通年)＝通年科目 ①＝MD模式開講

コミュニケーション学専攻（博士後期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	備考	履修方法
				前	後					
選択必修Ⅰ	96010	心理コミュニケーション特別研究A	認知心理コミュニケーションの研究（基礎心理学的な認知）	2		（休 講）	123			4単位以上を修得
	96011			2		潮村 公弘	123	金 5	①	
	96020	心理コミュニケーション特別研究B	認知心理コミュニケーションの研究（応用心理学的な認知）	2		（休 講）	123			
	96021			2		潮村 公弘	123	金 5		
	96030	社会コミュニケーション特別研究A	子育て問題とジェンダー コミュニケーション論・言語論文献講読A	2		井上 恵美子	123	火 2		
	96031			2		高田 明典	123	月 3		
	96032	社会コミュニケーション特別研究B	「国際移動とジェンダー」研究の最新動向 学校におけるジェンダー／セクシュアリティ問題	2		小ヶ谷 千穂	123	木 4		
	96040			2		井上 恵美子	123	火 1	①	
	96041	文化コミュニケーション特別研究A	コミュニケーション論・言語論文献講読B 「国際移動とジェンダー」研究の最新動向	2		高田 明典	123	月 3		
	96042			2		小ヶ谷 千穂	123	木 4		
	96050	文化コミュニケーション特別研究B	言語コミュニケーション研究の諸問題A カルチュラルスタディーズ、ポストコロニアリズム入門	2		斎藤 孝滋	123	水 2		
	96060			2		斎藤 孝滋	123	水 2		
	96070	文化コミュニケーション特別研究A	文化戦争とマルチカルチュアリズムの行方 カルチュラルスタディーズ、ポストコロニアリズム実践	2		諸橋 泰樹	123	水 2		
	96071			2		（休 講）	123			
	96072	文化コミュニケーション特別研究B	文化戦争とリベリズムの行方	2		藤巻 光浩	123	水 2		
	96080			2		諸橋 泰樹	123	水 2	①	
選択必修Ⅱ	96081	博士論文指導		2		（休 講）	123			4単位を修得
	96082			2		藤巻 光浩	123	水 2	①	
	96090			4		諸橋 泰樹	3	金 6		
	96091			4		斎藤 孝滋	3	金 6		
	96092			4		高田 明典	3	金 6	（通年）	
	96093			4		小ヶ谷 千穂	3	金 6		
	96094			4		潮村 公弘	3	金 6		

【備考欄】 （通年）＝通年科目 ①＝MO様式開講

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	原簿登録コード	科目名	講義題目	単位 前後	担当者	履修 年次	曜日 時限	備考	履修方法
第1群	グローバル化と現代社会	89010	グローバル化研究総論	グローバル化の中の国際関係	2	古内 洋平	12	月2	①	
		89020	現代社会論		2	(休 講)	12			
		89030	比較憲法論		2	(休 講)	12			
		89040	法秩序と現代社会	社会科学に関する外国語文献を読むⅦ	2	荒井 真	12	火5	②	
		89040	情報技術と現代社会	情報化社会の光と影	2	春木 良旦	12	月5		
		89060	ジェンダー論		2	田丸 理砂	12	火5	③	
	グローバル化と国際関係	89061	ジェンダー論		2	(休 講)	12			
		89070	国際政治論		2	(休 講)	12			
		89080	国際機構論		2	(休 講)	12			
		89090	国際人権論		2	(休 講)	12			
		89100	国際平和論		2	(休 講)	12			
		89100	国際政治経済論	Introduction to international political economy	2	杉之原 真子	12	月4		
	グローバル化と社会運動	89110	開発経済論	国際開発研究	2	高柳 彰夫	12	火2	②	
		89130	地球環境論		2	(休 講)	12			
		89830	環境と持続可能性	地域社会の持続可能性から見た教育の役割	2	高遠 綾子	12	火5		
		89140	市民運動・NGO・NPO		2	(休 講)	12			
		89820	国際スポーツ論	スポーツの中心と周縁	2	和田 浩一	12	火1	②	
		89650	文明間対話の可能性		2	(休 講)	12			
第2群	地域社会	89860	キリスト教の現代的課題		2	(休 講)	12		④	
		89160	地域社会研究総論	地域研究の方法 I	2	中塚 次郎	12	火5	①	
		89170	ヨーロッパ地域社会研究	ヨーロッパの危機とその克服	2	上原 良子	12	水2		
		89060	北アメリカ歴史・社会研究 1A		2	(休 講)	12		⑤	
		89070	北アメリカ歴史・社会研究 2A	多民族・多文化のアメリカA	2	中川 正記	12	火2		
		89190	ラテンアメリカ地域社会研究		2	(休 講)	12			
	グローバル化と地域文化	89200	アジア地域社会研究		2	(休 講)	12			
		89660	南アジア地域社会研究	南アジアから考える開発と貧困	2	木曾 順子	12	木2	②	
		89270	ヨーロッパ社会とキリスト教	近代世界とキリスト教	2	席口 尚彰	12	火1		
		89210	開発と地域社会		2	(休 講)	12			
		89610	家族と地域社会	アジアの社会変動と家族	2	金 孝男	12	木5	② ③	
		89220	ヨーロッパ文化論	ヨーロッパ文明の本質	2	大野 英二郎	12	火4	②	
	グローバル化と国際社会	89230	ラテンアメリカ文化論		2	(休 講)	12			
		89240	アジア文化論	中国現代思想研究 19	2	福島 仁	12	火5	②	
		89850	ヨーロッパ現代思想	アガンベンを読む	2	矢野 久美子	12	水1	② ④	
		89680	ヨーロッパの文化とジェンダー		2	(休 講)	12			
		89690	ヨーロッパの文化とジェンダー		2	田丸 理砂	12	金4	③	
		89840	アジアの文化とジェンダー		2	(休 講)	12		③ ④	
第3群	シンの中国の日本	89290	日本近現代史研究総論	グローバル視点から	2	大西 比呂志	12	木5	①	
		89310	日本歴史文化論	説話集の中に見る中世社会	2	眞 雅博	12	火2	②	
		89320	日中間の歴史と現在	日中比較史研究（近現代を中心に）	2	泉谷 勝子	12	火4		
		89330	日朝関係の歴史と現在	韓国併合と植民地統治	2	新城 道彦	12	木5		
		89340	欧米の社会科学と日本の社会科学	高田保馬の社会科学を再考する	2	ベンヤミン D. ミッドルトン	12	木4		
		89660	日本の近代と横浜	国際化と都市化の視点から	2	大西 比呂志	12	木5	②	
	日本の社会問題	89520	国際交流特殊研究		2	(休 講)	12			
		89521	国際交流特殊研究		2	(休 講)	12			
		89522	世界の日本の国憲法		2	(休 講)	12			
		89370	世界の中の日本国憲法		2	(休 講)	12			
		89380	日本社会とジェンダー		2	(休 講)	12		③	
		89390	日本社会と移民	日本人の海外移住の経験：南北アメリカにおける移民を中心に	2	ヒガ、マルセロ	12	木3	②	
	グローバル化と国際社会	89400	日本の環境問題		2	(休 講)	12			
		89410	キリスト教と日本社会		2	(休 講)	12			
		89810	日本経済の歴史と現在	日本経済の歴史分析	2	齊藤 直	12	木6		
		89420	文献講読		2	(休 講)	12			
		89421	文献講読		2	(休 講)	12			
		89422	文献講読		2	(休 講)	12			
第4群	国際交流実務研修	89440	フランス語文庫の検索と読解		2	大野 英二郎	12	火3		
		89441	言語演習		2	(休 講)	12			
		89443	中国思想史演習 19		2	福島 仁	12	火5		
		89790	国際交流実務研修	グローバル化と国際社会	2	高柳 彰夫	12			
		89791	国際交流実務研修	グローバル化と国際社会	2	高柳 彰夫	12			
		89620	自分史の書き方・時代の見方	時代と世代を考える	2	大野 英二郎	12	火4	⑥	

【備考欄】

①＝研究総論科目

③＝ジェンダー関連科目

⑤＝複式開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻、国際交流専攻）

②＝MD複式開講

④＝複式開講科目（国際交流研究科、人文科学研究科3専攻）

⑥＝「修了レポート」選択者は必修

→月5

→時外

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位 前 後	担当者	履修 年次	曜日 時限	備考	履修方法
修士論文指導	修士論文指導	89670	修士論文指導		2	古内 洋平	2	±4	指導教授の担当する科目を4単位以上修得。履修上の注意あり。	
		89671			2	古内 洋平	2	±4		
		89678			2	泉谷 陽子	2	±4		
		89679			2	泉谷 陽子	2	±4		
		89684			2	ベンヤミン D. ミドルトン	2	±4		
		89685			2	ベンヤミン D. ミドルトン	2	±4		
		89672			2	(休 講)	2			
		89673			2	(休 講)	2			
		89674			2	(休 講)	2			
		89675			2	(休 講)	2			
		89676			2	春木 良旦	2	±4		
		89677			2	春木 良旦	2	±4		
		89680			2	和田 浩一	2	±4		
		89681			2	和田 浩一	2	±4		
		89682			2	高柳 彰夫	2	±4		
		89683			2	高柳 彰夫	2	±4		
		89686			2	(休 講)	2			
		89687			2	(休 講)	2			
		89688			2	ヒガ、マルセーロ	2	±4		
		89689			2	ヒガ、マルセーロ	2	±4		
		89690			2	杉之原 真子	2	±4		
		89691			2	杉之原 真子	2	±4		
		89692			2	福島 仁	2	±4		
		89693			2	福島 仁	2	±4		
		89694			2	上原 良子	2	±4		
		89695			2	上原 良子	2	±4		
		89696			2	荒井 真	2	±4		
		89697			2	荒井 真	2	±4		
		89698			2	髙 雅博	2	±4		
		89699			2	髙 雅博	2	±4		
		89700			2	木曾 順子	2	±4		
		89701			2	木曾 順子	2	±4		
		89702			2	大野 英二郎	2	±4		
		89703			2	大野 英二郎	2	±4		
		89704			2	中塚 次郎	2	±4		
		89705			2	中塚 次郎	2	±4		
		89706			2	(休 講)	2			
		89707			2	(休 講)	2			
		89708			2	(休 講)	2			
		89709			2	(休 講)	2			
		89710			2	新城 道彦	2	±4		
		89711			2	新城 道彦	2	±4		
		89712			2	原口 尚彰	2	±4		
		89713			2	原口 尚彰	2	±4		
		89714			2	(休 講)	2			
		89715			2	(休 講)	2			
		89716			2	矢野 久美子	2	±4		
		89717			2	矢野 久美子	2	±4		
		89718			2	田丸 理砂	2	±4		
		89719			2	田丸 理砂	2	±4		
		89720			2	(休 講)	2			
		89721			2	(休 講)	2			
		89722			2	金 香男	2	±4		
		89723			2	金 香男	2	±4		
		89724			2	大西 比呂志	2	±4		
		89725			2	大西 比呂志	2	±4		
		89726			2	齊藤 直	2	±4		
		89727			2	齊藤 直	2	±4		
		89728			2	高雄 綾子	2	±4		
		89729			2	高雄 綾子	2	±4		

【備考欄】 ①＝研究総論科目 ②＝MD模式開講
 ③＝エッセイ関連科目 ④＝複式開講科目（国際交流研究所、人文科学研究科3専攻）
 ⑤＝複式開講科目（英語英米文学専攻、コミュニケーション学専攻、国際交流専攻） ⑥＝「修了レポート」選択者は必修

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位 前後	担当者	履修 年次	曜日 時限	備考	履修方法
修了レポート指導	修了レポート指導	89730	修了レポート指導		2	古内 洋平	2	±4	指導教授の担当する科目を4単位以上修得。履修上の注意あり。	
		89731			2	古内 洋平	2	±4		
		89738			2	泉谷 陽子	2	±4		
		89739			2	泉谷 陽子	2	±4		
		89744			2	ベンヤミン D. ミドルトン	2	±4		
		89745			2	ベンヤミン D. ミドルトン	2	±4		
		89732			2	(休 講)	2			
		89733			2	(休 講)	2			
		89734			2	(休 講)	2			
		89735			2	(休 講)	2			
		89736			2	春木 良旦	2	±4		
		89737			2	春木 良旦	2	±4		
		89740			2	和田 浩一	2	±4		
		89741			2	和田 浩一	2	±4		
		89742			2	高柳 彰夫	2	±4		
		89743			2	高柳 彰夫	2	±4		
		89746			2	(休 講)	2			
		89747			2	(休 講)	2			
		89748			2	ヒガ、マルセーロ	2	±4		
		89749			2	ヒガ、マルセーロ	2	±4		
		89750			2	杉之原 真子	2	±4		
		89751			2	杉之原 真子	2	±4		
		89752			2	福島 仁	2	±4		
		89753			2	福島 仁	2	±4		
		89754			2	上原 良子	2	±4		
		89755			2	上原 良子	2	±4		
		89756			2	荒井 真	2	±4		
		89757			2	荒井 真	2	±4		
		89758			2	髙 雅博	2	±4		
		89759			2	髙 雅博	2	±4		
		89760			2	木曾 順子	2	±4		
		89761			2	木曾 順子	2	±4		
		89762			2	大野 英二郎	2	±4		
		89763			2	大野 英二郎	2	±4		
		89764			2	中塚 次郎	2	±4		
		89765			2	中塚 次郎	2	±4		
		89766			2	(休 講)	2			
		89767			2	(休 講)	2			
		89768			2	(休 講)	2			
		89769			2	(休 講)	2			
		89770			2	新城 道彦	2	±4		
		89771			2	新城 道彦	2	±4		
		89772			2	原口 尚彰	2	±4		
		89773			2	原口 尚彰	2	±4		
		89774			2	(休 講)	2			
		89775			2	(休 講)	2			
		89776			2	矢野 久美子	2	±4		
		89777			2	矢野 久美子	2	±4		
		89778			2	田丸 理砂	2	±4		
		89779			2	田丸 理砂	2	±4		
		89780			2	(休 講)	2			
		89781			2	(休 講)	2			
		89782			2	金 香男	2	±4		
		89783			2	金 香男	2	±4		
		89784			2	大西 比呂志	2	±4		
		89785			2	大西 比呂志	2	±4		
		89786			2	齊藤 直	2	±4		
		89787			2	齊藤 直	2	±4		
		89788			2	高雄 綾子	2	±4		
		89789			2	高雄 綾子	2	±4		

【備考欄】 ①＝研究総論科目 ②＝MO複式開講
 ③＝エッセイ関連科目 ④＝複式開講科目（国際交流研究科、人文科学研究科）
 ⑤＝複式開講科目（英語英米文学専攻、国際交流専攻） ⑥＝「修了レポート」選択者は必修

国際交流専攻（博士後期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日・時間	備考	履修方法
				前 後					
特別研究	90010	グローバリゼーションと現代社会	情報化社会論	2	春木 良且	123	月 5		■指導教授の「特別研究」2単位を修得 ■その他2単位を修得
	90011	特別研究	社会科学に関する外国語文献を読むⅦ	2	荒井 真	123	火 5	①	
	90020	グローバリゼーションと国際関係	国際開発研究	2	高柳 彰夫	123	火 2		
	90021	特別研究		2	(休 講)	123			
	90030	グローバリゼーションと社会運動		2	(休 講)	123			
	90031	特別研究	オリンピックと平和運動	2	和田 浩一	123	火 1		
	90040		ヨーロッパの危機とその克服	2	上原 良子	123	水 2	①	
	90043	グローバリゼーションと地域社会	グローバル化する家族	2	金 香男	123	木 5		
	90041	特別研究		2	(休 講)	123			
	90042		南アジアから考える開発と貧困	2	木曾 順子	123	木 2	①	
	90050		地域に見るグローバリゼーションの功罪	2	大野 英二郎	123	火 4		
	90051			2	(休 講)	123			
	90053			2	(休 講)	123			
	90052	グローバリゼーションと地域文化	中国現代思想研究 19	2	福島 仁	123	火 5	①	
	90054	特別研究	ドイツ語圏文化とジェンダー	2	田丸 理砂	123	金 1		
	90055		戦争という問い（現実）をめぐって	2	矢野 久美子	123	水 1	①	
	90056			2	(休 講)	123			
	90060	グローバリゼーションの中の日本	平安時代の記録に見る主権	2	寛 雅博	123	火 2		
	90061	特別研究	横浜の外国人社会	2	大西 比呂志	123	木 5	①	
	90070	グローバリゼーションと日本の社会問題特別研究	日本人の海外移住の経験：南北アメリカにおける移民を中心に	2	ヒガ、 マルセーロ	123	木 3		
	90071			2	(休 講)	123			
博士論文指導	90130	国際交流実務研修		2	高柳 彰夫	123	時外		(通年) 指導教授の担当する科目を4単位修得
	90131			2	高柳 彰夫	123	時外		
	90090			4	木曾 順子	3	時外		
	90091			4	(休 講)	3			
	90092			4	(休 講)	3			
	90093			4	大野 英二郎	3	時外		
	90094			4	寛 雅博	3	時外		
	90095			4	荒井 真	3	時外		
	90096			4	上原 良子	3	時外		
	90097			4	大西 比呂志	3	時外		
	90098	博士論文指導		4	田丸 理砂	3	時外		
	90099			4	春木 良且	3	時外		
	90100			4	ヒガ、 マルセーロ	3	時外		
	90101			4	原口 尚彰	3	時外		
	90102			4	矢野 久美子	3	時外		
	90103			4	(休 講)	3			
	90104			4	高柳 彰夫	3	時外		
	90105			4	(休 講)	3			
	90106			4	中塚 次郎	3	時外		

【備考欄】 (通年)＝通年科目 ①＝MD模式開講

音楽芸術専攻（修士課程）

種別	開放	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	備考	履修方法
					前	後					
選択必修Ⅰ	■	97010	作曲研究 1 A	作曲技法の修得・室内楽作品を作曲	2		大田 桜子	12	木 3	(隔)	I 群から4単位以上修得
	■	97020	作曲研究 1 B	室内楽から室内オーケストラまでの作曲を試みる	2		大田 桜子	12	木 3		
		97030	作曲研究 2 A		2		(休 講)	12			
		97040	作曲研究 2 B		2		(休 講)	12			
		97410	応用音楽研究 1 A	音楽学の実践的学び	2		谷口 昭弘	12	火 3		
		97420	応用音楽研究 1 B	音楽研究を形にする方法と実践	2		谷口 昭弘	12	火 3		
		97430	応用音楽研究 2 A		2		(休 講)	12			
		97440	応用音楽研究 2 B		2		(休 講)	12			
		97450	音楽文化研究 1 A		2		(休 講)	12			
		97460	音楽文化研究 1 B		2		(休 講)	12			
		97470	音楽文化研究 2 A		2		(休 講)	12			
		97480	音楽文化研究 2 B		2		(休 講)	12			
	■	97090	音楽コミュニケーション研究 1 A	共演曲のレパートリーを作ろう	2		立神 粧子	12	金 3		
	■	97100	音楽コミュニケーション研究 1 B	よりプロフェッショナルなアンサンブルのために	2		立神 粧子	12	金 3		
		97110	音楽コミュニケーション研究 2 A		2		(休 講)	12			
選択必修Ⅱ		97120	音楽コミュニケーション研究 2 B		2		(休 講)	12		(隔)	II 群から4単位以上修得
		97130	作曲演習 1 A		2		(休 講)	12			
		97140	作曲演習 1 B		2		(休 講)	12			
		97150	作曲演習 2 A		2		(休 講)	12			
		97160	作曲演習 2 B		2		(休 講)	12			
		97490	応用音楽演習 1 A		2		(休 講)	12			
		97500	応用音楽演習 1 B		2		(休 講)	12			
		97510	応用音楽演習 2 A	ポピュラー音楽様式史演習	2		川本 聡嵐	12	火 4		
		97520	応用音楽演習 2 B	ポピュラー音楽様式史演習	2		川本 聡嵐	12	火 4		
		97530	音楽文化演習 1 A	研究テーマの洗練化・調査の深化・研究調査の執筆	2		瀬藤 康嗣	12	月 2		
		97540	音楽文化演習 1 B	研究テーマの洗練化・調査の深化・研究調査の執筆	2		瀬藤 康嗣	12	月 2		
		97550	音楽文化演習 2 A		2		(休 講)	12			
		97560	音楽文化演習 2 B		2		(休 講)	12			
	■	97210	音楽コミュニケーション演習 1 A		2		(休 講)	12			
	■	97220	音楽コミュニケーション演習 1 B		2		(休 講)	12			
選択		97230	音楽コミュニケーション演習 2 A	オペラやミュージカルの指揮と伴奏をする	2		星野 聡	12	月 3	(隔)	木 2
		97240	音楽コミュニケーション演習 2 B	オペラやミュージカルの歌唱と指揮、伴奏をする	2		星野 聡	12	月 3		
	■	97250	音楽人間環境科学 A	音楽と感情と自己洞察	2		堀川 千鈴	12	木 2		
	■	97260	音楽人間環境科学 B	音楽と心とコミュニティ	2		堀川 千鈴	12	木 2		
	■	97270	先端メディア・アート論 A	デジタル技術を援用した研究／制作	2		瀬藤 康嗣	12	月 5		
	■	97280	先端メディア・アート論 B	デジタル技術を援用した研究／制作 B	2		瀬藤 康嗣	12	月 5		
	■	97290	音楽教育ワークショップ A	音楽教育者に必要な楽曲分析力を養う	2		川本 聡嵐	12	火 3		
	■	97300	音楽教育ワークショップ B	音楽教育者に必要な技能を養う	2		川本 聡嵐	12	火 3		
	■	97310	音楽家のための創出型情報論 A	修士論文を書くために	2		成田 麗奈	12	木 2		
	■	97320	音楽家のための創出型情報論 B	これからの音楽家に必要な情報発信	2		成田 麗奈	12	木 2		
選択必修Ⅲ		97570	修士研究指導		2		大田 桜子	12	時外	4単位修得	
		97571			2		大田 桜子	12	時外		
		97572			2		谷口 昭弘	12	時外		
		97573			2		谷口 昭弘	12	時外		
		97578			2		立神 粧子	12	時外		
		97579			2		立神 粧子	12	時外		
		97580			2		星野 聡	12	時外		
		97581			2		星野 聡	12	時外		

【備考欄】 (隔)＝隔年開講 ■＝「他専攻への開放科目」

演奏専攻（修士課程）

種別	開放	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	備考	履修方法
					前	後					
選択必修Ⅰ		98010	声楽演奏研究1 A	オペラ実習	2		蔵田 雅之	12	木4		Ⅰ群から4単位以上修得
		98020	声楽演奏研究1 B	オペラ作品研究		2	蔵田 雅之	12	木4		
		98030	声楽演奏研究2 A		2		(休 講)	12			
		98040	声楽演奏研究2 B			2	(休 講)	12			
		98050	声楽演奏研究3 A	日本歌曲研究	2		西 由起子	12	金2		
		98060	声楽演奏研究3 B	重唱研究	2		蔵田 雅之	12	木5		
		98070	器楽演奏研究1 A	音楽の言葉を読む	2		黒川 浩	12	火5		
		98080	器楽演奏研究1 B	作曲家の個性と作品を検証する	2		黒川 浩	12	火5		
		98090	器楽演奏研究2 A		2		(休 講)	12			
		98100	器楽演奏研究2 B			2	(休 講)	12		(隔)	
		98110	器楽演奏研究3 A		2		(休 講)	12			
		98120	器楽演奏研究3 B			2	(休 講)	12			
		98130	器楽演奏研究4 A		2		(休 講)	12			
		98140	器楽演奏研究4 B			2	(休 講)	12			
		98150	器楽演奏研究5 A	様々な角度から作品分析を重ね演奏に反映させるA	2		井出 朋子	12	月1		
		98160	器楽演奏研究5 B	作品の分析と解釈をもとに表現力を高めるB	2		井出 朋子	12	月1	井出 朋子 / 細川 順三	
		98170	器楽演奏研究6 A		2		(休 講)	12			
		98180	器楽演奏研究6 B			2	(休 講)	12			
		98190	器楽演奏研究7 A		2		(休 講)	12			
		98200	器楽演奏研究7 B			2	(休 講)	12			
選択必修Ⅱ		98210	声楽作品演習1 A		2		(休 講)	12			Ⅱ群から4単位以上修得
		98220	声楽作品演習1 B			2	(休 講)	12			
		98230	声楽作品演習2 A	フランス歌曲（近代を中心に）の演奏法	2		太田 朋子	12	木5		
		98240	声楽作品演習2 B	英語歌唱研究	2		辻 裕久	12	月2		
		98250	声楽作品演習3 A		2		(休 講)	12			
		98260	声楽作品演習3 B			2	(休 講)	12			
		98270	器楽作品演習1 A		2		(休 講)	12			
		98280	器楽作品演習1 B			2	(休 講)	12			
		98290	器楽作品演習2 A		2		(休 講)	12		(隔)	
		98300	器楽作品演習2 B			2	(休 講)	12			
		98310	器楽作品演習3 A		2		(休 講)	12			
		98320	器楽作品演習3 B			2	(休 講)	12			
		98330	器楽作品演習4 A		2		芦田 弥生	12	金2		
		98340	器楽作品演習4 B			2	芦田 弥生	12	金2		
		98350	器楽作品演習5 A		2		(休 講)	12			
		98360	器楽作品演習5 B			2	(休 講)	12			
		98370	器楽作品演習6 A	世界のピアニスト	2		落合 敦	12	木3		
		98380	器楽作品演習6 B	世界のピアニスト	2		落合 敦	12	木3		
		98390	器楽作品演習7 A	さまざまな楽曲へのアプローチ方法を学ぶ	2		三浦 はつみ	12	月5		
		98400	器楽作品演習7 B	さまざまな楽曲へのアプローチ方法を学ぶ	2		三浦 はつみ	12	月5		
選択	■	98410	演奏様式研究理論と実践A	楽譜を読む上で知っておくべき事を実践しながら学ぶ	2		桐山 達志	12	集中		
	■	98420	演奏様式研究理論と実践B	ドイツ歌曲作品研究	2		西 由起子	12	金2		
	■	98430	教会音楽指導者育成ワークショップA	礼拝賛美・聖歌隊指導法について学ぶ	2		宇内 千晴	12	木3		
	■	98440	教会音楽指導者育成ワークショップB	礼拝賛美について考える	2		宇内 千晴	12	木3		
	■	98450	音楽家のための事業創造論A	オペラ制作の現場におけるマネージメントの実態と手法	2		高島 勲	12	集中		
	■	98460	音楽家のための事業創造論B	音楽を産業として概観しながら事業創造の立案を試みる	2		吉田 雅之	12	木1		
	■	98470	アーティストのための身体論A	表現力のある演奏をするために必要な諸要素を学ぶ	2		三輪 えり花	12	集中		
	■	98480	アーティストのための身体論B	演奏に直結する表現力を身につける	2		三輪 えり花	12	集中		

【備考欄】 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要（掲示等を確認）」 (隔)＝「隔年開講科目」 ■＝「他専攻への開放科目」
①＝45分個人レッスン ②＝15分個人レッスン

演奏専攻（修士課程）

種別	開放コード	科目名	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	備考	履修方法
				前 後					
選択ⅠA	■ 98490	実技レッスンA	声楽	3	専攻 教員	12	レッスン	要手続 ① 実技料別納	「実技レッスンA、B」「特別実技レッスンA、B」を合わせて24単位まで履修可。修了要件への算入は、演奏専攻は9単位、音楽芸術専攻は6単位まで。
	■ 98509		ピアノ	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98533		弦楽器	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98547		管楽器	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98567		オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98568		背景研究・論文作成	3	谷口 昭弘	12	レッスン		
	■ 98574		作曲	3	大田 桜子	12	レッスン		
	■ 98579		DTMとメディア・アート	3	瀬藤 康嗣	12	レッスン		
	■ 98594	実技レッスンB	声楽	3	専攻 教員	12	レッスン	要手続 ② 実技料別納	
	■ 98613		ピアノ	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98638		弦楽器	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98652		管楽器	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98662		オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	3	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98672		背景研究・論文作成	3	川本 聡胤	12	レッスン		
	■ 98678		作曲	3	大田 桜子	12	レッスン		
	■ 98685		DTMとメディア・アート	3	瀬藤 康嗣	12	レッスン		
	■ 98699	特別実技レッスンA	声楽	1	専攻 教員	12	レッスン	要手続 ② 実技料別納	
	■ 98718		ピアノ	1	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98743		弦楽器	1	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98757		管楽器	1	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98767		オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	1	専攻 教員	12	レッスン		
	■ 98777		背景研究・論文作成	1	谷口 昭弘	12	レッスン		
	■ 98783		作曲	1	大田 桜子	12	レッスン		
	■ 98789		DTMとメディア・アート	1	瀬藤 康嗣	12	レッスン		
■ 98804	特別実技レッスンB	声楽	1	専攻 教員	12	レッスン	要手続 ② 実技料別納		
■ 98823		ピアノ	1	専攻 教員	12	レッスン			
■ 98848		弦楽器	1	専攻 教員	12	レッスン			
■ 98862		管楽器	1	専攻 教員	12	レッスン			
■ 98872		オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	1	専攻 教員	12	レッスン			
■ 98882		背景研究・論文作成	1	川本 聡胤	12	レッスン			
■ 98888		作曲	1	大田 桜子	12	レッスン			
■ 98894		DTMとメディア・アート	1	瀬藤 康嗣	12	レッスン			
選択必修Ⅲ	98952	修士研究指導		2	蔵田 雅之	12	時外	4単位修得	
	98953			2	蔵田 雅之	12	時外		
	98954			2	落合 敦	12	時外		
	98955			2	落合 敦	12	時外		
	98956			2	戸田 弥生	12	時外		
	98957			2	戸田 弥生	12	時外		
	98958			2	堀 由紀子	12	時外		
	98959			2	堀 由紀子	12	時外		
	98960			2	黒川 浩	12	時外		
	98961			2	黒川 浩	12	時外		

【備考欄】 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要（掲示等を確認）」 （隔）＝「隔年開講科目」 ■＝「他専攻への開放科目」
①＝45分個人レッスン ②＝15分個人レッスン

学 籍

修業年限及び在学期間

(1) 修業年限

大学院の標準修業年限は、次のとおりです。

研究科	課程	修業年限
人文科学・国際交流研究科	博士前期課程	2年（4学期）
	博士後期課程	3年（6学期）
音楽研究科	修士課程	2年（4学期）

国際交流研究科博士前期課程への入学に際して、長期にわたる履修を願い出て入学を許可された長期履修学生の標準修業年限は次のとおりです。

研究科／種別	課程	修業年限
国際交流研究科／長期履修学生	博士前期課程	4年（8学期）

(2) 在学期間

→大学HP 大学院学則第20条の6

大学院の在学期間は、次のとおりです。この期間を超えて在籍することはできません。

研究科	課程	在学期間
人文科学・国際交流研究科	博士前期課程	4年（8学期）
	博士後期課程	6年（12学期）
音楽研究科	修士課程	4年（8学期）

国際交流研究科博士前期課程の長期履修学生の在学期間は次のとおりです。

研究科／種別	課程	在学期間
国際交流研究科／長期履修学生	博士前期課程	8年（16学期）

→大学HP 大学院学則第20条の6

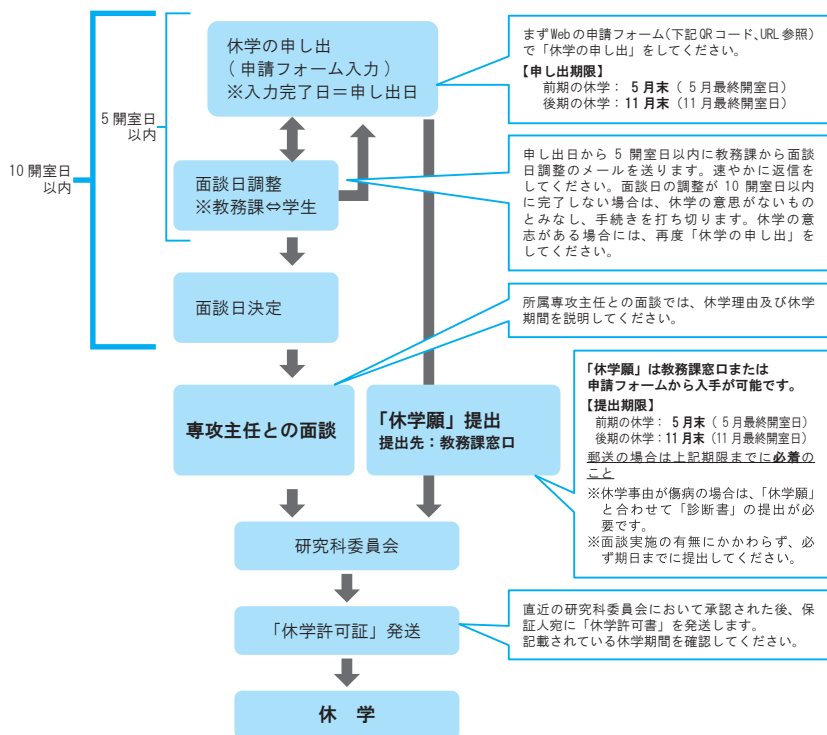
休 学

病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合は、次の休学の手続きの流れに沿って、申し出をし、専攻主任との面談及び定められた期日までに「休学願」（本学様式）の提出をもって休学を願い出ることができます。

なお、「休学願」は、学生本人及び保証人双方のサイン（自署）と捺印が必要です。

→大学HP 大学院学則第24条・第24条の2

休学の手続きの流れ



休学期間

前期もしくは後期の1学期、または1年を区分とします。

休学期間は修業年限の年数を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

進級・年次の扱い

前期または後期の1学期間のみ休学した学生は、翌年4月に自動的に1学年進級します。

ただし、修了までの修業年限が短縮されることはありません。

1年間継続して休学した場合は、年次が原級にとどまります。

在籍料、授業料等学納金の扱い

休学者は、学期ごとに所定の在籍料を大学院学則の規定に従って納入しなければなりません。

また、施設設備費については、休学中も大学院学則の規定に従って納入しなければなりません。

→大学HP 大学院学則第31条の5

→大学HP 大学院学則第31条の4第2項

復 学

復学の時期

届け出た休学期間を過ぎると、自動的に復学となります。

ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医との面談を行います。

さらに続けて休学を希望する場合または退学を希望する場合は別途手続きが必要です。休学期間が終了する前に教務課に問い合わせてください。

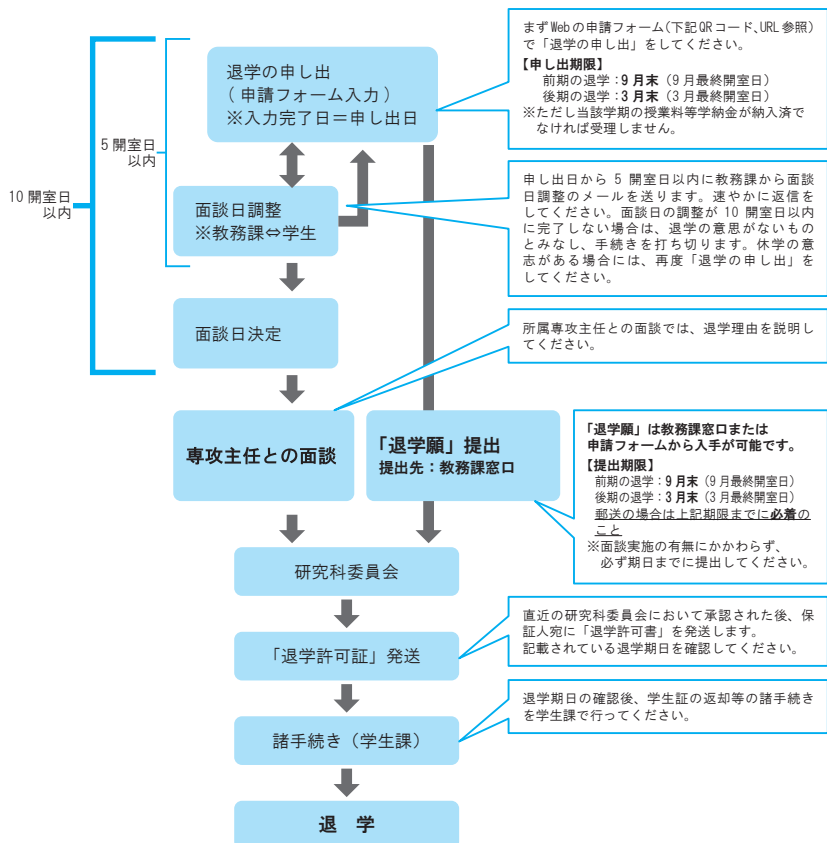
退 学

退学を希望する場合は、次の退学の手続きの流れに沿って、申し出をし、専攻主任との面談及び定められた期日までに「退学願」（本学様式）の提出をもって退学を願い出ることができます。

なお、「退学願」は、学生本人及び保証人双方のサイン（自署）と捺印が必要です。

→大学HP 大学院学則第24条・第24条の2

退学の手続きの流れ



なお、博士後期課程の標準修業年限に達して退学する場合も、所定の「退学願」の提出をもって願い出なければなりません。

除 籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。

→大学H P 大学院学則第27条の2

- (1) 在学期間を超えて修了資格を得られない場合
- (2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
- (3) 修業年限と同年数の休学期間を超えて、なお復学できない場合
- (4) 死亡した場合
- (5) 長期間にわたり行方不明の場合

なお、除籍日以降の履修・成績等はすべて無効となります。

留 学

研究科委員会の許可を得て外国の大学院に留学する場合、1年を限度として、その留学期間を、修業年限及び在学期間に算入することができます。また、博士後期課程の学生に限り、研究科委員会の許可を得て、留学期間を更に1年を限度として延長することができます。ただし、本大学院の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

→大学H P 大学院学則第23条

再入学

本大学院を退学した者または除籍を受けた者が再入学を願い出た場合は、原則として退学または除籍日を含む年度の末日から2年以内に所定の手続きによって願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、再学を許可することがあります。なお、再入学の時期は学期の始めとします。

→大学H P 大学院学則第28条

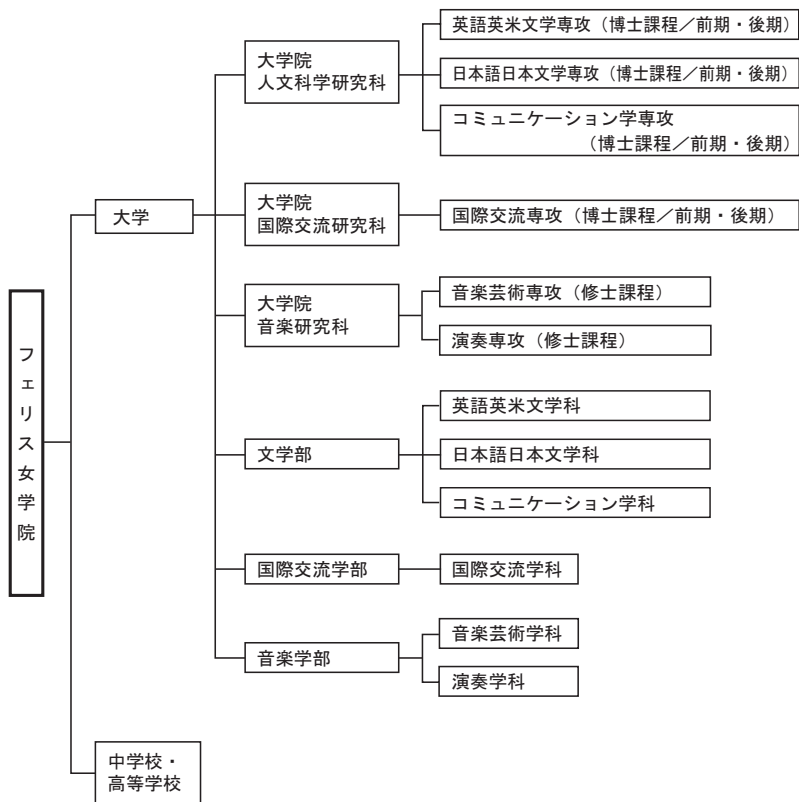
【再入学願の提出期限・提出先】

→大学H P 大学院再入学に関する内規

前期から再入学する場合	1月末
後期から再入学する場合	7月末
提出先	教務課

資料編

組織



フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870（明治3）年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E・キダーが始めた私塾にさかのぼります。これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師ヘボン博士のクララ夫人が、1863（文久3）年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

- 1870（明治 3）年 メアリー・E・キダー、ヘボン施療所で授業開始。〈フェリス女学院の発祥〉
- 1875（ 8）年 山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
- 1887（ 20）年 高等科設置。校舎拡張。
- 1889（ 22）年 校名を「フェリス和英女学校」とする。講堂「ヴァン・スカイック・ホール」完成。
- 1899（ 32）年 私立学校令により認可。特別科（高等科に替えて）設置。
- 1903（ 36）年 特別科を文学科・聖書研究科の2科（18～21歳）とする。英語師範科（16～19歳）設置。
- 1908（ 41）年 特別科を高等科（英文学部・神学部）に改める。
- 1919（大正 8）年 東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
- 1923（ 12）年 関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
- 1927（昭和 2）年 「専門学校入学者検定規定」による指定認可。
- 1929（ 4）年 新校舎・カイパー記念講堂竣工。
- 1930（ 5）年 高等部（英文科・家政科、17～19歳）設置。
- 1939（ 14）年 戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
- 1941（ 16）年 校名を「横浜山手女学院」に変更。
- 1947（ 22）年 専門学校（旧制）3年（英文科・家政科・音楽科）設置。
- 1950（ 25）年 校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校から短期大学（英文科・家政科）に改編。翌年に音楽科開設。
- 1965（ 40）年 大学開設。短期大学（英文科）を発展改組し、大学文学部（英文学科・国文学科）開設。
- 1970（ 45）年 学院創立100周年。
- 1988（ 63）年 短期大学（家政科）を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。大学緑園キャンパス開設。
- 1989（平成 1）年 短期大学（音楽科）を発展改組し、大学音楽学部（声楽学科・器楽学科・楽理学科）開設。フェリスホール竣工。
- 1991（ 3）年 大学院人文科学研究科修士課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1992（ 4）年 大学院人文科学研究科修士課程地域文化専攻開設。
- 1993（ 5）年 文学部国文学科を日本文学科に名称変更。
- 1995（ 7）年 大学院人文科学研究科を博士課程前期・後期に改組。
大学院人文科学研究科博士後期課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1997（ 9）年 文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部（国際交流学科）開設。

- 1998（平成10）年 大学院音楽研究科修士課程（声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻）開設。
国際学生交流会館開設。（～2008年3月）
- 2001（ 13）年 大学院国際交流研究科博士前期課程・博士後期課程（国際交流専攻）開設。
緑園キャンパス施設拡充（文学部棟、キダーホール・緑園、図書館竣工）。
- 2002（ 14）年 中高新校舎・新カイバー記念講堂竣工。
- 2004（ 16）年 文学部コミュニケーション学科開設。
音楽学部楽理学科を音楽芸術学科に、大学院音楽研究科創作表現専攻を音楽芸術専攻に
名称変更。
- 2005（ 17）年 音楽学部演奏学科（声楽学科・器楽学科の改組）開設。
- 2008（ 20）年 大学院人文科学研究科（コミュニケーション学専攻）博士前期課程開設。
- 2009（ 21）年 大学院音楽研究科修士課程演奏専攻（声楽専攻・器楽専攻の改組）開設。
- 2010（ 22）年 学院創立140周年。大学院人文科学研究科（コミュニケーション学専攻）博士後期課程開設。
- 2014（ 26）年 文学部英文学科を英語英米文学科に、文学部日本文学科を日本語日本文学科に名称変更。
- 2015（ 27）年 大学開設50周年。
- 2017（ 29）年 全学教養教育機構（CLA: Center for the Liberal Arts）開設。
- 2018（ 30）年 大学院人文科学研究科英文学専攻を英語英米文学専攻に、人文科学研究科日本文学専攻
を日本語日本文学専攻に名称変更。
- 2019（ 31）年 演奏学科募集停止、音楽芸術学科に改組統合。

専任教員一覧〔大学院〕

学 長

教 授	秋 岡 陽
-----	-------

副学長

教 授	谷 口 昭 弘
教 授	谷 知 子

人文科学研究科

英語英米文学専攻 博士前期課程

教 授	梅 崎 透
教 授	大 畑 甲 太
教 授	近 藤 存 志
教 授	富 樫 剛
教 授	中 川 正 紀
教 授	福 永 保 代
教 授	向 井 秀 忠
教 授	由 井 哲 哉
教 授	饒平名 尚 子
客員教授	高 橋 和 久

英語英米文学専攻 博士後期課程

教 授	梅 崎 透
教 授	大 畑 甲 太
教 授	近 藤 存 志
教 授	富 樫 剛
教 授	中 川 正 紀
教 授	福 永 保 代
教 授	向 井 秀 忠
教 授	由 井 哲 哉
教 授	饒平名 尚 子

日本語日本文学専攻 博士前期課程

教 授	勝 田 耕 起
教 授	佐 藤 裕 子
教 授	島 村 輝
教 授	竹 内 正 彦
教 授	谷 知 子
教 授	松 田 浩
教 授	吉 田 弥 生
准教授	田 中 里 奈

日本語日本文学専攻 博士後期課程

教 授	勝 田 耕 起
教 授	佐 藤 裕 子
教 授	島 村 輝
教 授	竹 内 正 彦
教 授	谷 知 子
教 授	松 田 浩
教 授	吉 田 弥 生

コミュニケーション学専攻 博士前期課程

教 授	井 上 恵美子
教 授	小ヶ谷 千 穂
教 授	齋 藤 孝 滋
教 授	潮 村 公 弘
教 授	高 田 明 典
教 授	藤 巻 光 浩
教 授	諸 橋 泰 樹
准教授	相 澤 一
准教授	高 橋 京 子 (2019年度特別研修)
准教授	山 崎 浩 一

コミュニケーション学専攻 博士後期課程

教 授	井 上 恵美子
教 授	小ヶ谷 千 穂
教 授	齋 藤 孝 滋
教 授	潮 村 公 弘
教 授	高 田 明 典
教 授	藤 巻 光 浩
教 授	諸 橋 泰 樹

国際交流研究科

国際交流専攻 博士前期課程

教授	荒井 真
教授	上原 良子
教授	大西 比呂志
教授	大野 英二郎
教授	寛 雅博
教授	木曾 順子
教授	金 香男
教授	齊藤 直
教授	佐藤 輝 (2019年度特別研修)
教授	高柳 彰夫
教授	田丸 理砂
教授	中塚 次郎
教授	原口 尚彰
教授	春木 良且
教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	古内 洋平
教授	ベンヤミン ミドルトン Benjamin MIDDLETON
教授	矢野 久美子
教授	和田 浩一
准教授	泉谷 陽子
准教授	新城 道彦
准教授	杉之原 真子
准教授	高雄 綾子
准教授	福島 仁

国際交流専攻 博士後期課程

教授	荒井 真
教授	上原 良子
教授	大西 比呂志
教授	大野 英二郎
教授	寛 雅博
教授	木曾 順子
教授	金 香男
教授	佐藤 輝 (2019年度特別研修)
教授	高柳 彰夫
教授	田丸 理砂
教授	中塚 次郎
教授	原口 尚彰
教授	春木 良且
教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	矢野 久美子
教授	和田 浩一
准教授	福島 仁

音楽研究科

音楽芸術専攻 修士課程

教授	秋 岡 陽
教授	立神 粧子
教授	谷口 昭弘
教授	星野 聡
准教授	大田 桜子
准教授	川本 聡胤
准教授	瀬藤 康嗣

演奏専攻 修士課程

教授	落合 敦
教授	蔵田 雅之
教授	黒川 浩
教授	土屋 広次郎
教授	戸田 弥生
教授	堀 由紀子
講師	井出 朋子

役職者等

学院長	鈴木 佳秀
学長	秋岡 陽
副学長	谷口 昭弘
副学長	谷 知子
全学教養教育機構長	谷 知子
附属図書館長	島村 輝
大学院委員・大学評議員	梅崎 透
大学院委員・大学評議員	井上恵美子
大学院委員・大学評議員	木曾 順子
大学院委員・大学評議員	大西比呂志
大学院委員・大学評議員	立神 粧子
大学院委員・大学評議員	蔵田 雅之
情報センター長	春木 良且
山手総括主事	堀 由紀子
宗教主事	相澤 一
教職課程主任	山崎 浩一
教務部長	竹内 正彦
学生部長	上原 良子
国際部長	近藤 存志
入試部長	荒井 真
国際センター長	近藤 存志
言語センター長	竹内 正彦
宗教センター長	相澤 一
ボランティアセンター長	ベンヤミン ミドルトン

人文科学研究科

研究科長	由井 哲哉
英語英米文学専攻主任	中川 正紀
日本語日本文学専攻主任	勝田 耕起
コミュニケーション学専攻主任	諸橋 泰樹
教務責任者	饒平名尚子
入試責任者	藤巻 光浩

国際交流研究科

研究科長	高柳 彰夫
国際交流専攻主任	金 香男
教務責任者	齊藤 直
入試責任者	古内 洋平

音楽研究科

研究科長	堀 由紀子
音楽芸術専攻主任	星野 聡
演奏専攻主任	黒川 浩
教務責任者	土屋広次郎
入試責任者	蔵田 雅之

文学部

学部長	由井 哲哉
英語英米文学科主任	中川 正紀
日本語日本文科主任	勝田 耕起
コミュニケーション学科主任	諸橋 泰樹
教務主任	饒平名尚子
入試主任	藤巻 光浩

国際交流学部

学部長	高柳 彰夫
国際交流学科主任	金 香男
教務主任	齊藤 直
入試主任	古内 洋平

音楽学部

学部長	堀 由紀子
音楽芸術学科主任	星野 聡
演奏学科主任	黒川 浩
教務主任	土屋広次郎
入試主任	蔵田 雅之

教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】：各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文 学 部	饒平名尚子 教務主任 向井 秀忠 (英語英米文学科) 佐藤 裕子 (日本語日本文学科) 小ヶ谷千穂 (コミュニケーション学科)
国 際 交 流 学 部	齊藤 直 教務主任
音 楽 学 部	土屋広次郎 教務主任 川本 聡胤 (音楽芸術学科) 落合 敦 (演奏学科)

【教務責任者】

人 文 科 学 研 究 科	饒平名尚子
国 際 交 流 研 究 科	齊藤 直
音 楽 研 究 科	土屋広次郎

【科目責任者・語学責任者】：次の各科目に関すること。

CLA コア科目 / 基礎教養・総合課題科目	未 定 (全般) 原口 尚彰 (キリスト教) 春木 良且 (情報リテラシー) 和田 浩一 (健康・スポーツ)
教 職 課 程	山崎 浩一
日 本 語 教 員 養 成 講 座	田中 里奈
留学生日本語・日本事情科目	奈良夕里枝

英 語	大畑 甲太
フ ラ ン ス 語	朝倉 三枝
ド イ ツ 語	田丸 理砂
ス ペ イ ン 語	ヒガ, マルセーロ
中 国 語	泉谷 陽子
朝 鮮 語	新城 道彦

古 典 ギ リ シ ア 語	新城 道彦
ラ テ ン 語	
イ タ リ ア 語	
日 本 語 (日本語Ⅰ, Ⅱ)	田中 里奈、勝田 耕起

2019年度の主な制度変更 [大学院関連]

博士後期課程－博士の学位申請に関すること（2017年度以降入学者）

博士の学位申請のプロセスが変わりました。従来の「予備論文」を廃止し、スケジュールも変更しました。博士の学位申請論文を提出しようとする者は、「学位申請論文提出資格確認願」一式を提出のうえ予め審査を受け、学位申請論文提出資格を得る必要があります。また、修了要件のうち、在学期間及び修得単位数を満たして退学した者は、再入学をすることにより博士の学位申請論文を提出することができます。

2019年度 フェリス女学院大学大学院要覧

2019年4月1日 発行

発 行 フェリス女学院大学

緑園校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3

TEL 045-812-8211(代表)

山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37

TEL 045-681-5150(代表)

印 刷 株式会社 野毛印刷社

フェリス女学院大学公式webサイト <https://www.ferris.ac.jp/>

